

第 25 回孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム幹事会 議事次第

令和 7 年 3 月 19 日（水）
17：00～18：00
（オンライン開催）

1. 開会

2. 報告事項

- （1）分科会等
 - ・分科会 1 について
 - ・分科会 3 について
- （2）その他
 - ・令和 6 年度第 2 回シンポジウムについて
 - ・令和 6 年度通常総会関連イベントについて
 - ・令和 7 年度予算案について

3. 議題

- （1）令和 7 年度孤独・孤立対策強化月間について

4. その他

- ・令和 7 年度関連スケジュールについて

5. 閉会

【配付資料】

- 資料 1 分科会 1 について
- 資料 2 分科会 3 について
- 資料 3 令和 6 年度第 2 回シンポジウムについて
- 資料 4 令和 6 年度通常総会関連イベントについて
- 資料 5 令和 7 年度予算案について
- 資料 6 令和 7 年度孤独・孤立対策強化月間について
- 資料 7 令和 7 年度関連スケジュールについて

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

【分科会 1（第 5 回）】 議事次第

令和 7 年 2 月 2 8 日（金）

1 1 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

（ オ ン ラ イ ン 開 催 ）

○「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けた取組の在り方

1 開会

2 議題

（ 1 ） 経過説明

- ・ 令和 6 年度のつながりサポーター養成の取組に関する報告
- ・ 今後のつながりサポーター養成の展開について
- ・ 令和 7 年度孤独・孤立対策強化月間について

（ 2 ） 意見交換

（ 3 ） その他

3 閉会

分科会 1 (第 5 回) プログラム

■日 時 令和 7 年 2 月 28 日 (金) 11 : 00 ~ 12 : 00

■開催方法 Microsoft Teams ズームを活用したオンラインミーティング

■プログラム

時間	項目	担当 (進行)	資料
11:00~	プログラムおよび配布資料の説明	内閣府	有 (議事次第)
11:02~ (23 分)	経過説明	あなたのいばしょ ／新公益連盟	有
11:25~ (30 分)	意見交換	同上 ・大西政策参与	無
11:55~	事務連絡	内閣府	無

令和6年度における つながりサポーター養成の取組に関する報告



孤独・孤立^{対策}
官民連携プラットフォーム

目次

- 01 背景
- 02 つながりサポーター養成講座の方向性について
- 03 令和 6 年度における取組について
- 04 有識者検討会について
- 05 養成テキストについて
- 06 令和 6 年度における実施事業について
- 07 こども若者★いけんぷらすの実施について

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム
分科会 1：「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けた取組の在り方
これまでの検討成果の概要

令和4年10月7日

1. はじめに

- 「孤独・孤立対策の重点計画」(R3.12.28)の基本方針(1)をテーマとして、「支援を求める声を上げやすい・声を受け止める・声をかけやすい社会」に向けて、**孤独・孤立の理解・意識や機運を社会全体で高める取組の在り方**を検討。
(※方針(1)：孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする)

2. 検討の視点

- 「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(R3)」の結果を踏まえ、以下の**3つの視点から課題と対応策を検討**。
①制度を知らない層
②制度は知っているが相談できない層
③相談者(相談を受ける人)になりうる層

3. 現状と課題

&

4. 対策案

※ 対策案については、速やかに取り組むことが基本であるが、中長期的に取り組むものも含め、以下のようなことが考えられる。

①制度を知らない層

- 当事者や家族に必要な情報が届くよう、**制度・情報に触れる機会の増加**が必要
➢「**プッシュ型**」、「**アウトリーチ型**」による**予防的な関わり強化**(※転入・転出、母子健康手帳交付時等)
➢制度や相談先の情報サイトやポータルサイト等を公共機関等のHPに掲載
➢検索連動型の広告・ポスター
➢**孤独・孤立対策強化月間・週間**
➢地域で制度を学ぶ・周知の機会 等

②制度は知っているが相談できない層

- 相談ハードルを下げる**、相手への迷惑負担への配慮、**遠慮・我慢をなくす**が必要
➢制度や相談機関と接する機会の増加
➢**申請負担感の削減(オンライン化等)**
➢イベントやキャンペーンによる効果的な周知
➢孤独・孤立対策強化月間・週間
➢**制度活用は権利**であることの**認識周知**(例：アウティング防止、「主訴がわからない」状態者への広告)
➢**行政と民間団体の連携促進** 等

③相談者(相談を受ける人)になりうる層

- 社会的理解や関心、関われるタイミングやきっかけ、ためらいの弊害の除去**が必要
➢身近な**実践者の事例紹介**
➢様々なライフステージにて支え手になる方法を学ぶ活動の実施
➢**認知症サポーター養成事業**のような**仕組み創設**(※2005年開始、1,391万人(R4.6末)、全国統一のテキストによる90分程度の講座)
➢**ゲートキーパー等の既存の取組を推進**
➢コーディネートやサポート体制の整備 等

④その他

- 支援に関わる者は、孤独・孤立の実態(実態調査の結果等)を基礎知識として備えておくことが必要。
○**地方版官民連携プラットフォームを活用した好事例の構築・全国への普及**、自治体の幹部を含めた理解促進が重要。

5. おわりに

- 「4.対策案」は、**広く官民が連携し、相談者になりうる層の育成を基盤にして**孤独・孤立対策強化月間等に集中的に取り組むことが効果的。
○**分科会1**としては、各種取組の進捗を確認しながら、**孤独・孤立の社会環境の変化や実態を把握しつつ、さらに検討**。
○なお、「**プッシュ型**」「**アウトリーチ型**」の支援については、**分科会2、分科会3**の議論とも連携しながら検討。

③相談者(相談を受ける人)になりうる層については、

「『認知症サポーター養成事業』を参考に、孤独・孤立の理解者を増やす活動として同養成講座のような仕組みを設ける。」とまとめている。

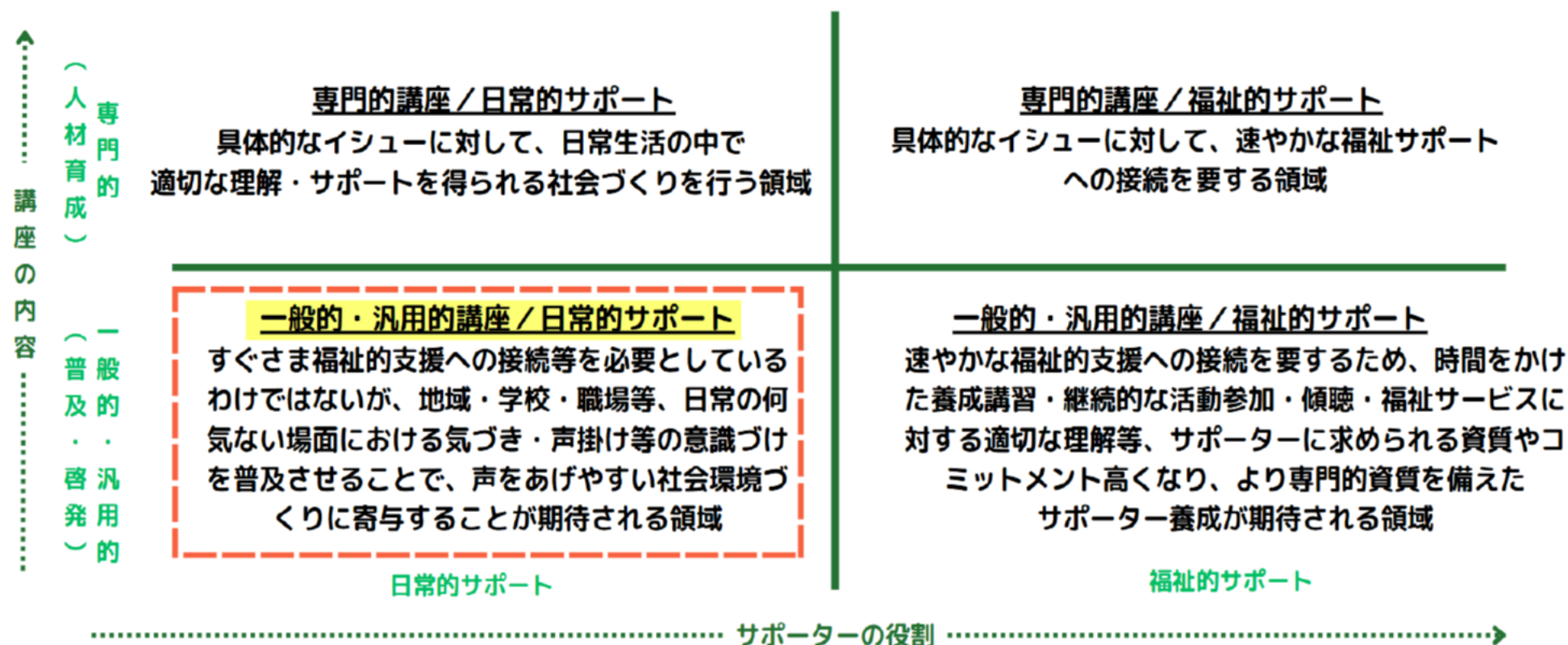
⇒孤独・孤立についての理解・意識や機運を社会全体で高めていくために、

孤独・孤立の問題を抱える当事者等をサポートする人材(つながりサポーター)を養成する必要。

「**つながりサポーター**」を養成するため、標準テキストの作成等、サポーターを養成するための仕組みづくりを目的。_5_

つながりサポーター養成講座は、孤独・孤立に関する問題の普及・啓発を目的とする。

孤独・孤立にも関連する既存の養成講座が存在する中で、(ゲートキーパー、ひきこもりサポーター等) 近接する他領域の養成制度との棲み分けについて下図のとおり整理

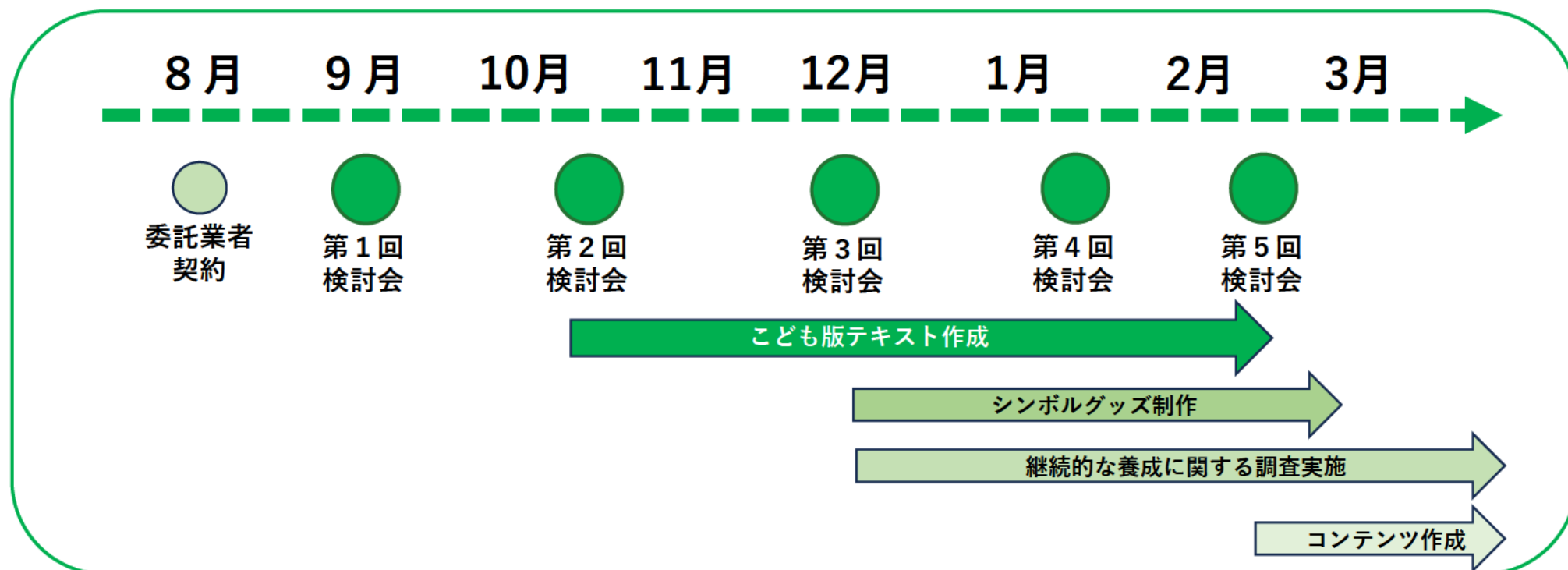


つながりサポーター養成講座

→ 普段から福祉に携わっている人だけでなく、専門的知識をもたない国民全般も対象とした。

→ 専門家を育成するのではなく、日常の何気ない場面での気づきや声かけ等の意識づけを促し、
声を上げやすい社会環境づくりをしてくための普及・啓発を主たる目的としている。

令和6年度における取組について



2024年8月 委託業者(株式会社Ridilover)との契約

9月 第1回有識者検討会(以下「検討会」)、養成講座実施団体募集開始

10月 第2回検討会(第1回こどもWG)

11月 こども若者★いけんぷらす実施

12月 第3回検討会(第2回こどもWG)

シンボルグッズ作成((株)デザインアンドデベロップメント)

継続的な養成に関する調査開始((株)野村総合研究所)

2025年1月 第4回検討会(第3回こどもWG)、採択団体への養成講座実施

2月 第5回検討会(第4回こどもWG)、周知用コンテンツ作成開始((株)TOPPAN)

つながりサポーターの養成に関する意見の収集・分析を行うことを目的として、孤独・孤立対策に関わりのある有識者により構成される検討会の設置および運営を行なった。

【検討会有識者構成】

氏名	所属
井澤 徹	特定非営利活動法人新公益連盟
石井 綾華	特定非営利活動法人 LightRing. 代表理事
川口 寿弘	鳥取県鳥取市 総務部人権政策局 次長／中央人権福祉センター 所長
北村 肇	特定非営利活動法人地域共生政策自治体連携機構 事務局 次長
清水 達也	一般社団法人日本産業カウンセラー協会 執行理事
根岸 督和	特定非営利活動法人あなたのいばしょ 理事長
原田 正樹	日本福祉大学 学長

第1回

令和6年9月3日

- 今後のスケジュールの確認
- シンボルグッズの検討

第2回

令和6年10月29日

- こども版テキスト改訂方針案の検討

【有識者】中井 俊雄 様(ノートルダム清心女子大学人間生活学部人間生活学科准教授)

第3回

令和6年12月4日

- こども版テキスト作成に向けた検討
(イラストの挿入、表現の工夫)

【有識者】松浦 直己 様(三重大学教育学部特別支援教育コース教授)
横山 美江 様(大阪公立大学大学院看護学研究科教授)

第4回

令和7年1月15日

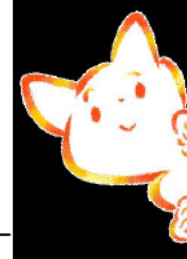
- こども版テキスト作成に向けた検討
- こども若者★いけんぷらす結果報告

【有識者】津田 顕吾 様(さいたま市教育委員会 教育研究所 所長)

第5回

令和7年2月19日

- こども版テキスト作成に向けた検討
- 学習指導案の作成に向けた検討



養成テキスト（大人版）について

つながりサポーターの養成に必要な基礎的知識や求められる能力等をまとめた標準テキストを作成。
また、養成講座の将来的な展開に向けて、講師に特別な資質や能力を求めず、
誰でも講師を務めていただけるように、標準テキストの章ごとの時間配分の目安や、留意事項および各
スライドにおける解説例を示した“講師用テキスト”も作成。（※いずれも令和5年度に作成）

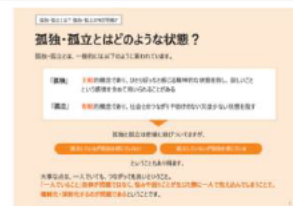
<養成テキスト>

	項目	時間目安
1	はじめに	5分
2	孤独・孤立の何が問題か	13分
3	つながりを考えてみよう	5分
4	調査結果からわかること	8分
5	困ったときどうする？	12分
6	相談窓口を知ろう	12分
7	地域の活動を知ろう	3分
8	最後に	2分
	参考資料	



<講師用テキスト>

スライド5：孤独・孤立とはどのような状態？



「孤独・孤立」とは、一般的にはスライドに定義したように書かれています。
孤独とは主観的な概念であり、ひとりぼっちと感じる、精神的な状態を指し、寂しいこと
という感情を含めて用いられることが多く、というふうに使われています。次に孤立とは客
観的な概念であり、社会とのつながりや助けがない、または少ない状態を指す。このように
使われています。

孤独と孤立は厳密に区別されていますが「孤立しているが孤独は感じていない」や「孤立
していないが孤独を感じている」といったこともあります。

大事な点は一人でいてもいいし、誰かとつながっていてもいいということです。一人でいるこ
と自体が問題というわけではなくて、周りごとが孤独化の要因に一人で抱えこんでしまうこと
であり、悩みや悩みごとが複雑化・深刻化するのが問題であるということです。ですので、孤
独・孤立というものが個人の問題か否かを判断するものでなく、孤独・孤立は陥りやす
い問題が顕在化してしまうような点を問題視しているというところが重要な点となります。

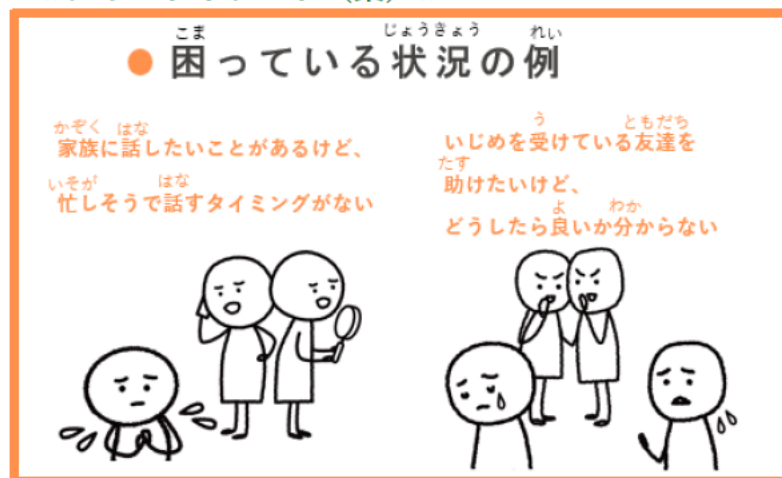
前半では、「孤独・孤立とは何か？」という基本的な知識に加えて、誰もが孤独・孤立に陥りやすくなっている社会背景、
身近にある孤独・孤立状態の例、孤独・孤立に関する調査データを紹介する。孤独・孤立は社会構造上発生しており、
個人の責任（自己責任）ではないということ、他人事でなく自身や身近なところで発生している問題であることを説明。
後半では、個人ワークを取り入れ、自分そして周囲の人が悩みや困りごとを抱えたときにできることを考えていただく。
さらに具体的な行動例を示すことで基本的な対応を学ぶとともに、対応する相談窓口や地域活動を紹介する。

つながりサポーター養成講座標準テキストをこども向けにアレンジ。イラストを用いて「孤独・孤立」の状況を示すことで、こどもにも伝わるように工夫。
また、将来的には授業の一環で実施することを想定し、指導案の作成にも着手。

《テキスト表紙（案）》



《テキストイラスト（案）》



《指導案（案）》

1. 題材
つながりサポーター養成講座テキスト

2. ねらい
孤独・孤立とはどういう状態なのかという知識や「つながりサポーター」について学び、自分や周りの人が悩んでいる時や困っている時に、誰かを頼ったり、少し気にかけてりすることについて考えることができる。

3. 本時の流れ

導入
(2分)

ワーク①
(8分)

解説(孤独・孤立について知る)(12分)

ワーク②
(16分)

まとめ
(2分)

4. 本時の展開

	学習活動・内容	指導上の留意点等
導入 (2)	1. 本時の題材を知る ＜テキスト1＞ 今日、学習すること①	☐ テキストでも記載のあるとおり、「孤独・孤立が悪いわけではない」ということを事前に伝えておく。 ☐ 不安や悩みを抱えている等、配慮を要する場合は、授業中方法を事前に伝えておく。
	＜テキスト2ページ＞ 今日、学習すること②	☐ 教師は、学習の流れを説明し、授業の見通しが立てられるようにする。
ワーク ク ① (8)	2. 孤独について、それぞれが感じ方が違うことを体感する ＜テキスト3～5ページ＞ 「孤独」ってどんなイメージ？ ・XXXXX ・XXXXX	☐ XXXXX ☐ XXXXX
	① 発問1	
	＜テキスト6～7ページ＞	☐ XXXXX

※構想段階

令和6年度における実施事業について（養成講座）

つながりサポーターの養成に向けた取組として、全国各地でつながりサポーター養成講座を開催。
37団体の応募の中から参加者の属性等を考慮し、15自治体と9団体を採択。（合同開催あり）
なお、講師には有識者検討委員会の委員も参加した。

	実施団体	開催日時	参加者	参加人数 (予定を含む)	開催方式	講師
1	秋田県	1月16日 (木)	行政職員、関係団体・支援団体職員	67人	対面／オンライン	根岸委員
2	一般社団法人こども宅食応援団	1月17日 (金)	全国のこども食堂運営スタッフ	24人	オンライン	はれの日サロン 中井様
3	徳島県／阿南市／小松島市	1月20日 (月)	行政職員、関係団体・支援団体職員、市民	90人	対面／オンライン	清水委員
4	株式会社ハピクロ (北九州)	1月21日 (火)	民生委員、NPO等職員、市民	50人	対面	（実施団体で講師を担当）
5	春日井市	1月22日 (水)	行政職員、社会福祉協議会、地域福祉アドバイザー	22人	対面	一般社団法人Shien 代表理事 山田様
6	神奈川県／座間市／綾瀬市／海老名市／大和市	1月24日 (金)	行政職員、関係団体・支援団体職員	55人	対面	井澤委員
7	福山市	1月27日 (月)	行政職員、社会福祉協議会職員、民生委員	45人	対面	井澤委員
8	川口市	1月27日 (月)	行政職員、関係団体・支援団体職員	54人	対面	清水委員
9	滋賀県	1月28日 (火)	行政職員、関係団体・支援団体職員	75人	オンライン	川口委員
10	仙台市	1月29日 (水)	民生委員、NPO等職員、市民（大学生）	34人	対面	井澤委員
11	群馬県	1月29日 (水)	民生委員、NPO等職員、市民	72人	対面	社会福祉法人愛宕福祉会 川崎様
12	認定NPO法人わかやまNPOセンター	1月31日 (金)	民生委員、NPO等職員、市民	44人	対面／オンライン	清水委員

令和6年度における実施事業について（養成講座）

	実施団体	開催日時	参加者	参加人数 (予定を含む)	開催方式	講師
13	東京海上日動火災保険	2月3日 (月)	東京本社、神奈川支店等職員	25人	対面／オンライン	井澤委員
14	埼玉県／東松山市	2月5日 (水)	民生委員、NPO等職員、市民	73人	対面／オンライン	清水委員
15	社会福祉法人京都総合福祉協会	2月8日 (土)	関係団体・支援団体職員、市民	16人	対面／オンライン	清水委員
16	福井市	2月10日 (月)	行政職員、関係団体・支援団体職員	22人	対面	清水委員
17	特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン	2月12日 (水)	行政職員、関係団体・支援団体職員、民生委員、NPO等職員、市民	55人	対面	(実施団体で講師を担当)
18	長崎県	2月13日 (木)	行政職員、関係団体・支援団体職員	50人	対面／オンライン	大西参与
19	熊本市	2月14日 (金)	PF参加団体、PF参加を検討中の団体、行政職員	53人	対面／オンライン	大西参与
20	広島県	2月15日 (土)	行政職員、民生委員、NPO等職員、市民	41人	対面／オンライン	根岸委員
21	一般社団法人ひふみよ (北海道)	2月15日 (土)	民生委員、NPO等職員、市民	8人	対面／オンライン	清水委員
22	富山県	2月17日 (月)	行政職員、関係団体・支援団体職員	79人	対面／オンライン	根岸委員
23	社会福祉法人袖ヶ浦市社会福祉協議会	2月21日 (金)	行政職員、関係団体・支援団体職員、民生委員、NPO等職員、市民	63人	対面	清水委員
24	一般社団法人Re-Start Project (大阪)	2月22日 (土)	行政職員、関係団体・支援団体職員、民生委員、NPO等職員、市民	60人	対面	(実施団体で講師を担当)
	福山市	2月25日 (火)	福山市立城北中学校中学1年生、教員、支援団体職員、市民	238人	対面／オンライン	大西参与



広く国民の理解を深めるため、受講証としてピンバッチを配布。

ピンバッチを着用して活動していただくことで、孤独・孤立の問題を抱える方への支援を円滑なものとするのと、制度の周知啓発が目的。

裏面には「あなたはひとりじゃない」のQRコードが掲載されている。



あなたはひとりじゃない
<https://www.notalone-cao.go.jp/>



各自治体や民間企業において、自発的な養成講座の開催が可能となるよう、養成講座動画や講師向け研修用動画のほか、著名人に出演いただく広報動画等を作成。また、全国的に取組を展開していくにあたり多くの人から親しみを持ってもらえるよう、ヒカリノを使用したステッカーや待ち受け画面、窓口置くバルーンの制作を行う。

※ 構 想 段 階



▼スマホ待ち受け画面イメージ



▼PC壁紙イメージ



12ヶ月待ち受けカレンダーテーマ ヒカリノと人ととの「つながり」シチュエーション			
月	行事概要イメージ	月	行事概要イメージ
4	サクラ満開	10	ハロウィン・トリート
5	こいのぼり	11	紅葉狩り
6	雨の日の傘	12	クリスマス
7	夏祭りのリボン飾	1	こたつでほっこり
8	海水浴	2	ゆきあそび
9	秋の収穫	3	美しいビビック



P5「全体構成」参照

ヒカリノアニメーションブロック

自己紹介～冒頭導入

※音声は合成音声を仮当てしています

テキスト解説ブロック

「つながりサポーター養成講座」

標準テキスト P2「はじめに」

つながりサポーターとは？



身のまわりの人に
 関心を持ち
 できる範囲で
 困っている人を
 サポートしてあげるだけでいいんだ

こども版テキストの作成にあたり、対面・オンライン・WEBアンケートの3つの方法でこどもたちの生の声を聞き取った。

【不安や悩みを誰かに相談することができますか】という設問(Q.7)について、約80%が「はい」と回答している中で、「相談するのは気まずい」、「適当な人に話すと「無視すればいいじゃん」と軽く扱われてしまいそう」など、こどもの正直な気持ちが表れる回答がみられた。

また、【まわりに不安や悩みを抱えている人がいたら、声掛けや手助けをしようと思いますか】という設問(Q.17)に対しては約70%が「しようと思う」と回答している中で、「手を差し伸べるというイメージがわからない」「どのように行動してよいかわからない」といった課題点も見つかり、調査の結果を踏まえ、こどもに向けたつながりサポーター養成講座の有用性も明確になった。

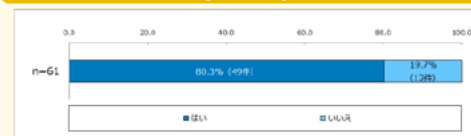
アンケートの質問内容

こどもみんなが
こども家庭庁

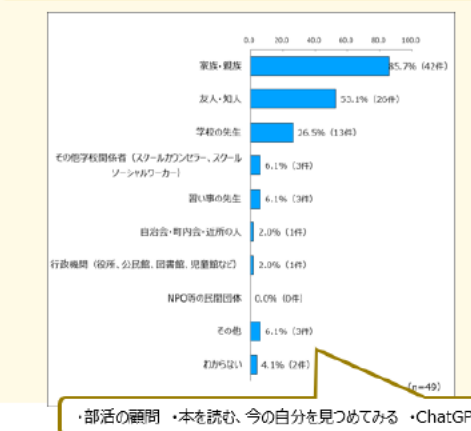
①不安や悩みを相談することについて	Q1	年代
	Q2	性別
	Q3	あなたには困った時に頼れる人はいいますか。
	Q4	あなたは普段生活している中で、不安や悩みを感じることはありますか。
	Q5	(問4で「ある」と回答した方のみ) 不安や悩みなどのような内容ですか。
	Q6	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
	Q7	あなたは不安や悩みを誰かに相談することができますか。
	Q8	(問7で「はい」と回答した方のみ) 不安や悩みを相談できないのは、あなたがどのような気持ちになるからですか。
	Q9	(問7で「はい」と回答した方のみ) あなたは誰に相談をしますか。
	Q10	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
②相談窓口について	Q11	あなたは不安や悩みを相談することについて、どのように感じますか。
	Q12	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
	Q13	あなたは不安や悩みを抱えている人のための相談窓口を知っていますか。
	Q14	(問13で「知っている」と回答した方のみ) 相談窓口を利用したことがありますか。
③悩みや不安を抱えている人へのサポートについて	Q15	(問14で「利用したことがない」と回答した方のみ) 相談窓口を利用したことがない理由は何ですか。
	Q16	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
	Q17	あなたは、まわりに不安や悩みを抱えている人がいたら、積極的に声掛けや手助けをしようと思いますか。
	Q18	(問17で「しようと思わない」、「わからない」と回答した方のみ) その理由をお答えください。
④孤独を感じることにについて	Q19	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
	Q20	あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。
	Q21	現在の孤独感(問16で回答した状況)に強く影響を与えたとと思われる出来事はどれですか。
	Q22	前の質問の「その他の出来事」で選んだ出来事について詳しく教えてください。

1. 不安や悩みを相談することについて

Q7. あなたは不安や悩みを誰かに相談することができますか。
(単数回答)



Q8. (Q7で「はい」を選んだ方のみ) あなたは誰に相談をしますか。(複数回答)



・部活の顧問 ・本を読む、今の自分を見つめてみる ・ChatGPT

不安や悩みを誰かに相談することができますか。

こどもみんなが

〈場合による〉

- ・電話相談できる窓口はあるが「わざわざ電話してまで相談することじゃないかも」という気持ちがあるかもしれないので、対面で相談できると良い。
- ・真剣に人に話さなれないと思う。適当な人に話すと「無視すればいいじゃん」と言われるように軽く扱われてしまうかもしれない。
- ・身近なところで相談できると良い。

〈難しい〉

- ・人に相談することは今のところハードルが高い。
- ・相談する相手を選ぶのが難しい。
- ・相談するのは気まずい。
- ・電話をかけることによって何がかわるかわからず、緊張する。現状を変えてほしいが、変えられるのも困るということもある。
- ・カウンセラーとはあまり話したことがないので、相談することにドキドキしてしまう。一方で、友達に相談しても確実に解決してくれるというわけではないので難しい。

相談できる人・頼れる人はいいますか。

〈いる〉

- ・本当に仲が良い友達だけ。
- ・だいたいはお母さんに相談する。
- ・保健室の先生に絶大な信頼を置いている。
- ・相談事と無関係の友達に相談する。
- ・問題になっている人とは関わりたくない。先生と相談する。
- ・関係する人と相談し、意見を取り入れる。
- ・自分から相談するより、周りの人に声をかけてもらえる。

〈他の解決策〉

- ・人に相談することが不安になる悩みはChatGPTやアプリなどで相談する。
- ・自分一人でお悩みを解決しようとする。

○対象 : 「こども若者★いけんぷらす」の「ぷらすメンバー」に登録している小学4年生～中学生

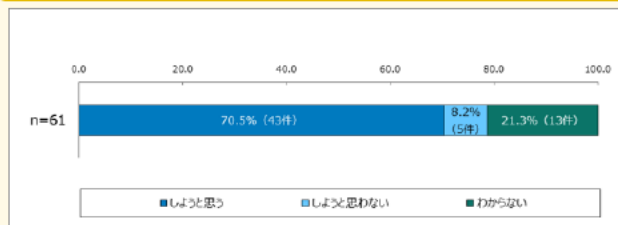
○回答内訳 : 対面6名、オンライン4名、WEBアンケート61件

○集計結果 : (間に合えばHPのリンク)

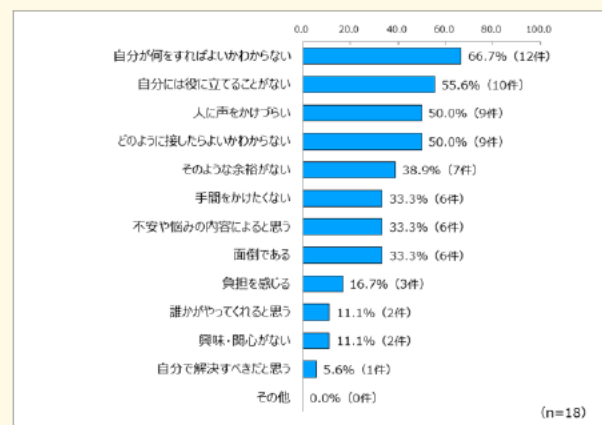
3. 不安や悩みを抱えている人へのサポートについて

こどもまんを
こども 家庭庁

Q17. あなたは、まわりに不安や悩みを抱えている人がいたら、積極的に声掛けや手助けをしようと思いますか。(単数回答)



Q18. (Q17で「しようと思わない」または「わからない」を選んだ方のみ) その理由をお答えください。(複数回答)



まわりの不安や悩みを抱えている人に、声掛けや手助けをすることについて、どう思いますか。

〈手助けする〉

- 困った人がいた時に放っておく自分の中で悔いが残る。
- 〈しない・どうしたらいいかわからない〉
- 自分が大変な時は自分のことに没頭してしまい、他人のことを考えられない。
- 悩んでいることを知っていても声をかけない。困っている人に対して、「困っているなら人を頼れ!」というイメージが強い。「自分から話しかけてくれればいいのに」と思う。
- 周りで困っている人を認識していない。あまり困っていなさそうだなと思ってしまう。手を差し伸べるといイメージがわからない。
- 本人が自覚していないが、客観的にみて明らかに困っている状況のとき、どのように行動していいかわからない。
- 周りから話しかけられて意見を求められることが多い。

他の人が困っている・不安であることを確認する方法

- 日常的に話している人であれば、困っていることや不安に関する話題がいきなり出てくることもある。
- いつも喋っている人だと「なんだか今日は違うな」と思うことがある。
- 困っているということを暗に伝えられるツールがあったら、役に立つと思う。

相談や悩みごとを言いやすい人・言いやすくする方法

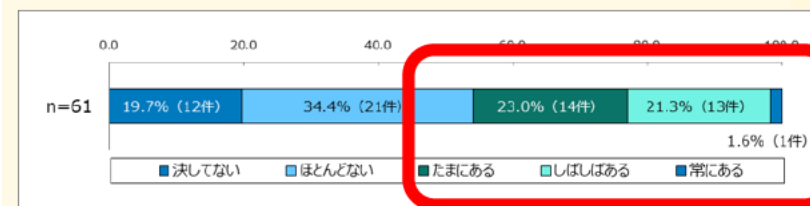
- その人に話しても他の人にバレないという安心感や「この人に話せば大丈夫」という信頼感がある。
- 匿名でつぶやけると、相談しやすい。
- セラピードッグなど動物に癒してもらいたいと思う。ぬいぐるみがたくさん置いてあってゆっくりできる部屋があると安心できると思う。

相談や悩みごとを言にくい人

- 別の学校に行っている友達は自分にはあまりいないし、いたとしても会って話すことはそう簡単にはできない。
- 忙しい人に相談してしまうと相手にとって迷惑を考えてしまう。
- 自分勝手に自分の意見を押し付けてくる人には相談しづらい。
- 普段から友達のことをべらべら喋ってしまう人に相談するのは不安。
- 相談に乗ってくれる人が疲れていると相談する側も嫌だと思う。

4. 孤独を感じることにについて

Q20. あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(単数回答)



ひとりぼっち・孤独を感じる時はどのようなときですか。

- 新型コロナウイルスが流行し、半年くらい休校になったときは、ずっと家にいて友達とも話すことができず不安だった。
- 友達がいると思ってオンラインゲームを開始したら、友達がいなかったとき。
- 同じ習い事のグループが集まっていて、自分は同じ習い事をしていないからそのグループに入れなかったとき。
- 部活の練習が終わった後、部員が少しずつ帰っていて一人になっていくときにさみしさを感じる。
- 自分だけ病気になって、身体は治っているのに出席停止期間で休まないといけないとき。

→孤独感が「常にある」「しばしばある」「たまにある」と回答した人が、45.9% (約4割)

令和 7 年度事業の進め方に関するご報告



< 令和7年度の実施イメージ >

- ① こども向けテキストの展開 (新規)
- ② サポーター養成のさらなる発展を目指した取組 (一部新規)

< 令和7年度の実施イメージ >

① こども向けテキストの展開 (新規)

1) 学習指導案および講師用テキストの検討

令和6年度事業で作成した、こども向けテキストについて、
教育現場等で活用いただける、「学習指導案」の作成を進める。

(※令和6年度事業では、学習指導案の骨子まで作成予定)

2) こども向け養成講座の試行実施

こども向けテキストを活用して、小学校高学年～中学生向けの養成講座の試行実施を進める。

（ご報告） 令和 7 年度事業の進め方について

< 令和 7 年度 of 取組イメージ >

② サポーター養成のさらなる発展を目指した取組（一部新規）

1) 養成講座の実施

令和 6 年度 20 団体程度で実施した養成講座について、
令和 7 年度も引き続き、養成講座の実施に協力いただける団体を募集する。
(令和 6 年度：20 団体 → 令和 7 年度：○団体？)

2) 受講証明グッズの作成

令和 7 年度における養成講座の自主開催に前向きな団体（東京海上日動など）にお渡しする、
受講証明ピンバッジの作成を行う。

3) 地域ブロック別の養成講座・意見交換会の開催

地域ブロック単位で、行政職員を対象とした、養成講座と意見交換の機会を設けることにより、
自治体間連携や好事例の横展開を図る。

例えば、

前半：つながりサポーター養成講座の開催

後半：サポーター養成やPF形成など、孤独・孤立対策に関する意見交換会

→ 近隣自治体の担当者間で意見交換を行うことで、

- ・ 孤独・孤立対策を進める上での、PF形成や水平的連携に向けた知見の共有
- ・ 各地域におけるサポーター養成の取組の加速 を目指す。

（ご報告） 令和 7 年度事業の進め方について

＜令和 7 年度の取組スケジュールイメージ＞

	2025年									2026年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討会関係		● 担当幹事会（適宜開催）										
カリキュラム関係												
講座実施												

→この他、事務局機能の設置や養成目標など、恒常的な体制整備に関する論点は、分科会1本体 および 担当幹事会にて継続的に議論を予定

つながりサポーター養成目標に関するご相談



孤独・孤立^{対策}
官民連携プラットフォーム

（ご相談） つながりサポーター養成目標の設定について

【前提】

「支援を求める声を上げやすい・声をかけやすい社会」の実現を目指し、
孤独・孤立についての理解、意識や機運を社会全体で高めていくための取組の一環として、
つながりサポーター養成の取組を進めているところ。

【課題】

つながりサポーターを養成することにより、
「理想的な状態」「最終目標」を実現するためには、（→声を上げやすい・声をかけやすい社会？）
具体的かつ実現可能な養成目標の設定が求められる。

※具体的な養成目標の設定により、対外的な説明や分科会1構成団体の協力を仰ぐねらいも

【論点】

つながりサポーターの養成を進める上で、具体的かつ実現可能な目標設定を検討する。
（例：「〇年で〇人の養成を行う」など）

※最終的に、分科会1本体での議論を経て決定したいと考えているため、
まずは「どのような目標設定が適切か」、皆様のご意見を頂戴したいと考えております。

(参考) 関連施策との比較

【提案】

つながりサポーターも「○年度に100万人」を中長期目標として、養成を進めていくのはどうか。

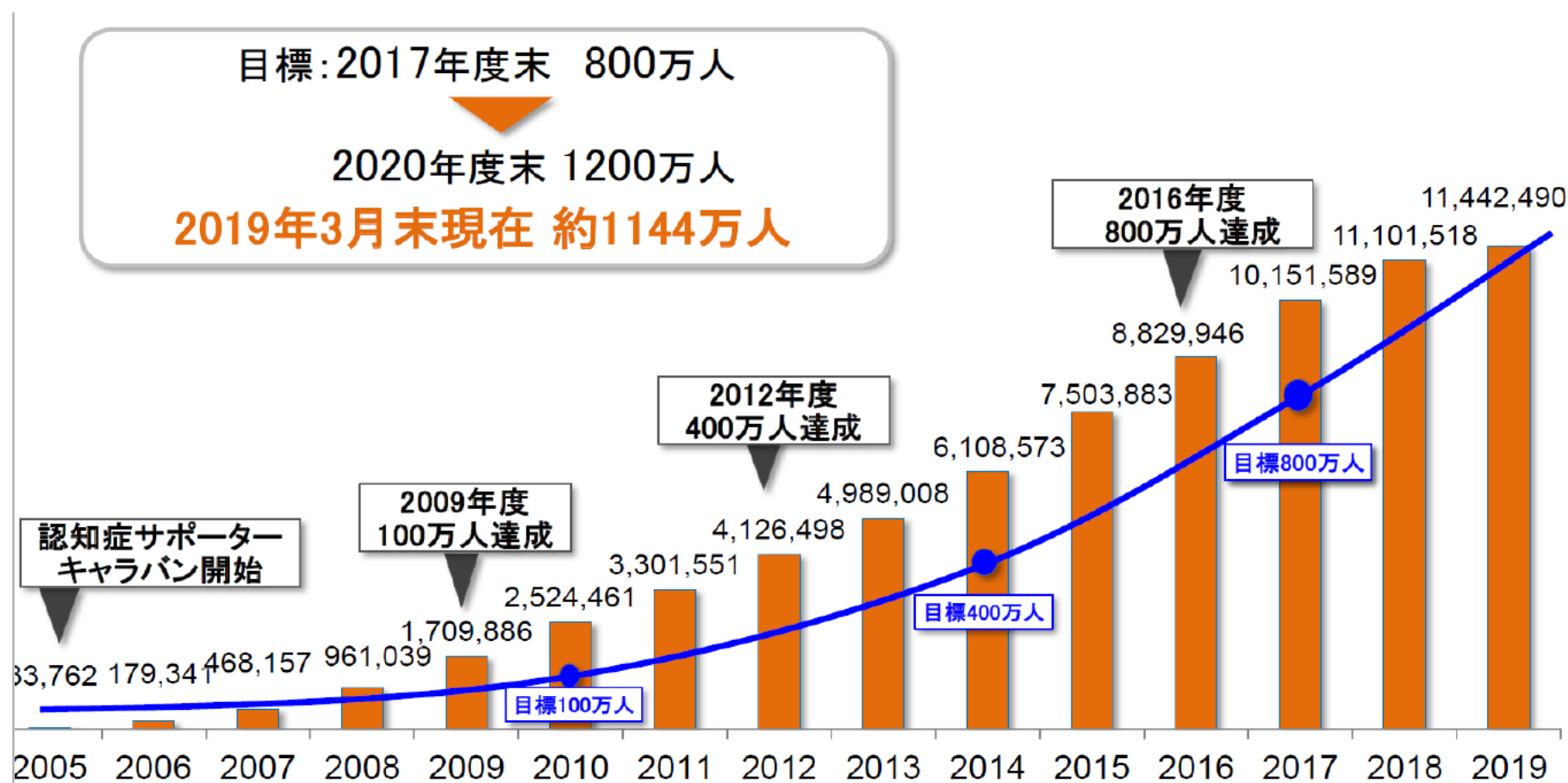
	認知症サポーター	心のサポーター	つながりサポーター
開始年度	2005年	2021年 (本格実施は2024年)	2023年 (本格実施は2024年度)
養成状況	約1,598万人 (2024年12月31日時点)	15,551人 (2024年11月30日時点)	推定 約1,600人 (2025年3月31日見込み。 自発的な講座は人数不明。)
目標設定	2005年 養成開始 2010年：100万人目標 2014年：400万人目標 2017年：800万人目標 2020年：1,200万人目標	2021～23年度：モデル事業 2024年：養成開始 (全国的な展開を開始) 2028年：38万人目標 2033年：100万人目標	
事務局	全国キャラバン・メイト連絡協議会	国立精神・神経医療研究センター (NCNP) に委託	検討予定
講座時間	約1時間30分	約2時間 (90分共通内容＋30分選択内容) 選択内容は各自治体が決定。	約1時間
受講対象	地域住民、職域、学校、広域の団体・企業 等の従事者など、広く <u>誰でも</u>	子どもから大人まで <u>誰でも</u>	一般市民含めて広く <u>誰でも</u>
実施方法	対面/オンライン (動画視聴のみは不可)	対面/オンライン	対面/オンライン
指導者の資格	認知症介護指導者養成研修修了者 認知症介護実践リーダー研修(認知症介護 実務者研修専門課程)修了者 介護相談員 など	医師、保健師、看護師、精神保健福祉士、 公認心理師等の国家資格を有しており、 精神保健に携わる方、 またはメンタルヘルスファーストエイド 等の心の応急処置に関する研修を既に受 講している方	特別な資格は不要で 誰でも講師を担える

(参考) 認知症サポーターの目標設定について

(参考) 認知症サポーターの場合 (認知症サポーターキャラバンHPより引用)

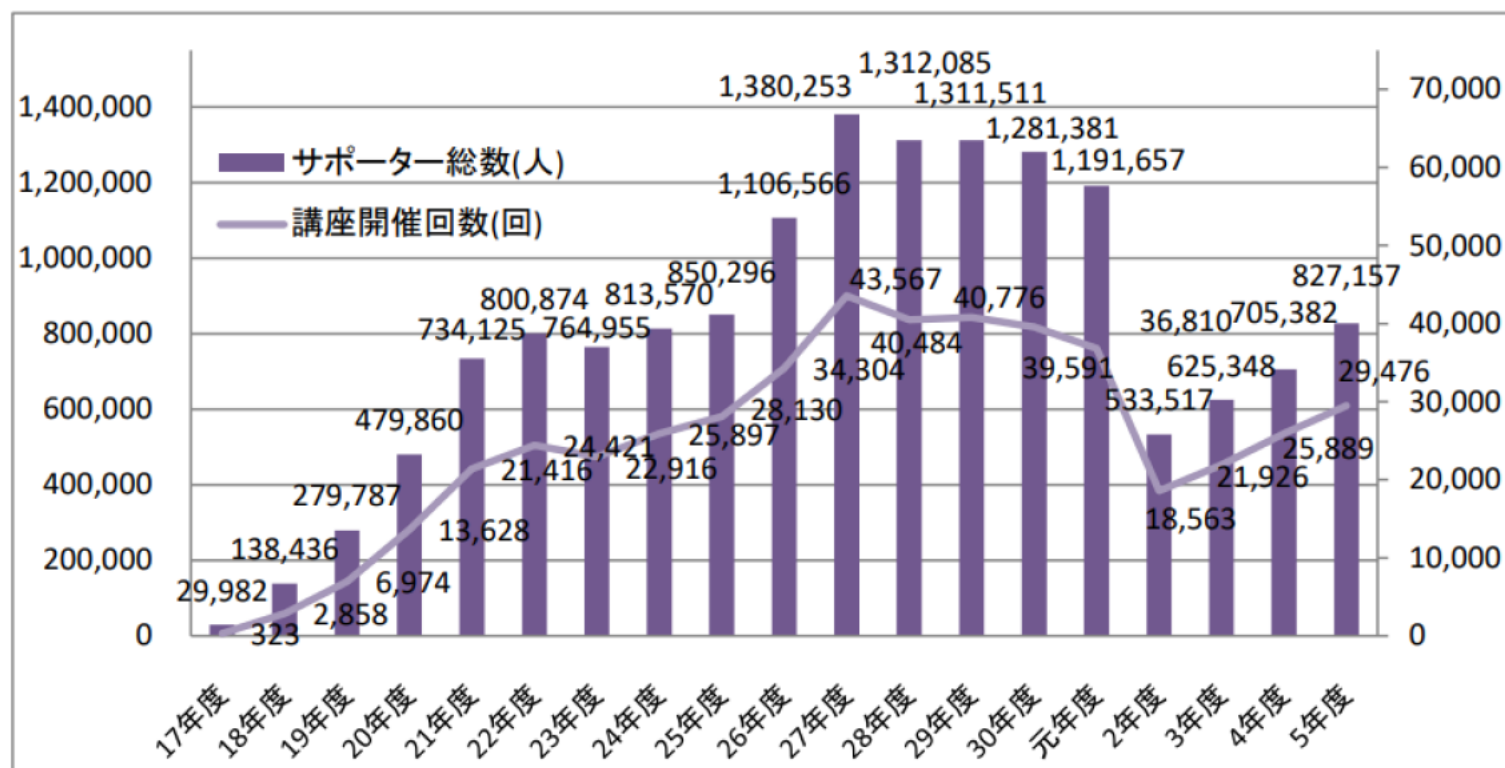
(参考) 認知症サポーターの養成状況 (令和5年度末時点)

- ・ 認知症サポーター数 15,166,742人
- ・ 講座開催回数 477,949回



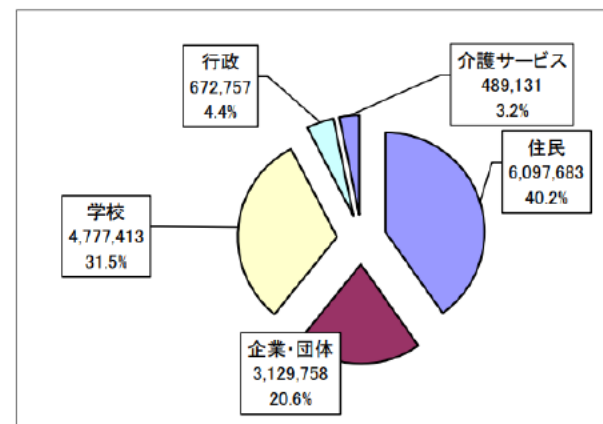
(参考) 認知症サポーターの目標設定について

(参考) 認知症サポーターの場合 (認知症サポーターキャラバンHPより引用)



③ 受講対象者分類別のサポーター数、講座開催回数の内訳

対象者分類	サポーター数	講座開催回数
1 住民	6,097,683	232,874
2 企業・団体	3,129,758	114,798
3 学校	4,777,413	87,451
4 行政	672,757	19,000
5 介護サービス	489,131	23,826



(参考) 心のサポーターの目標設定について

(参考) 心のサポーターの場合 (厚労省公表資料より引用)

- 世界精神保健調査では、我が国の精神障害へ罹患する生涯有病率が22.9%であり、精神疾患は誰でも罹患しうることが報告されている。
- 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会」においても、地域住民への普及啓発を進めるにあたり、メンタルヘルス・ファーストエイドへの賛同が既に得られている。※メンタルヘルス・ファーストエイドとは、地域の中で、メンタルヘルスの問題をかかえる人に対し、住民による支援や専門家への相談につなげる取り組み。
- 今般、新型コロナウイルス感染症に係る心のケアの充実が求められている中、平時からの心の健康への対策や普及啓発は急務である。

※メンタルヘルス・ファーストエイド (MHFA) の実践体制

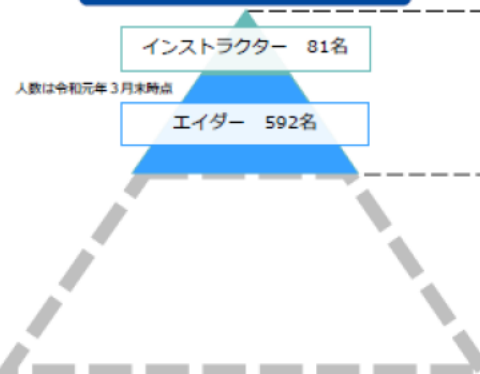
◆インストラクター

2日間の指導者研修を受講
(研修のコツと実際・模擬研修・評価とフィードバック)

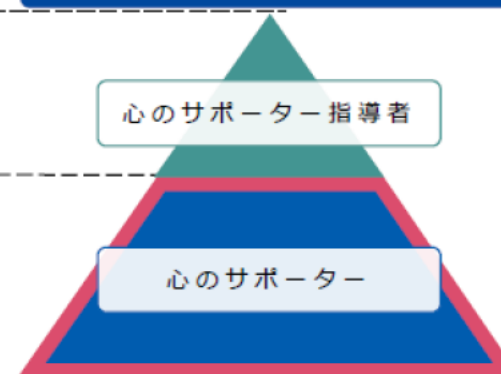
◆エイダー

2日間のMHFA実施者研修を受講
(MHFAの基本理念・うつ病・不安障害・精神障害・依存症等への対応)

MHFAの実践体制



心のサポーター養成の仕組み



※心のサポーターの養成体制

◎心のサポーター指導者

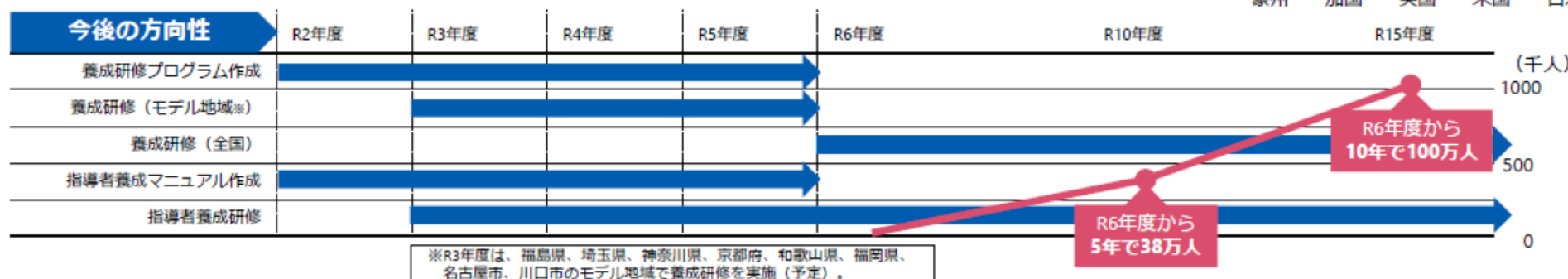
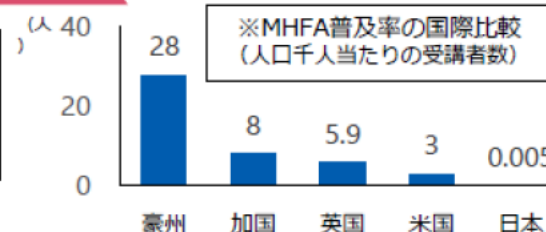
- MHFAのインストラクター及びエイダーであること
- 2時間の指導者研修を受講

◎心のサポーター

- 2時間の実施者研修を受講

心のサポーターとは

「メンタルヘルスやうつ病や不安など精神疾患への正しい知識と理解を持ち、メンタルヘルスの問題を抱える家族や同僚等に対する、傾聴を中心とした支援者」(小学生からお年寄りまでが対象)
⇒ MHFAの考え方に基づいた、2時間程度で実施可能な双方向的研修プログラムを使用(座学+実習)



つながりサポーター養成事務局 の設置に関するご相談



孤独・孤立 対策
官民連携プラットフォーム

（ご相談） つながりサポーター養成事務局の設置について

【前提】 つながりサポーターの継続的な養成にあたっては、これまで個別調達で進めてきた、実施主体との調整や受講状況管理の役割を担う“**恒常的な事務局機能**”の設置が必要

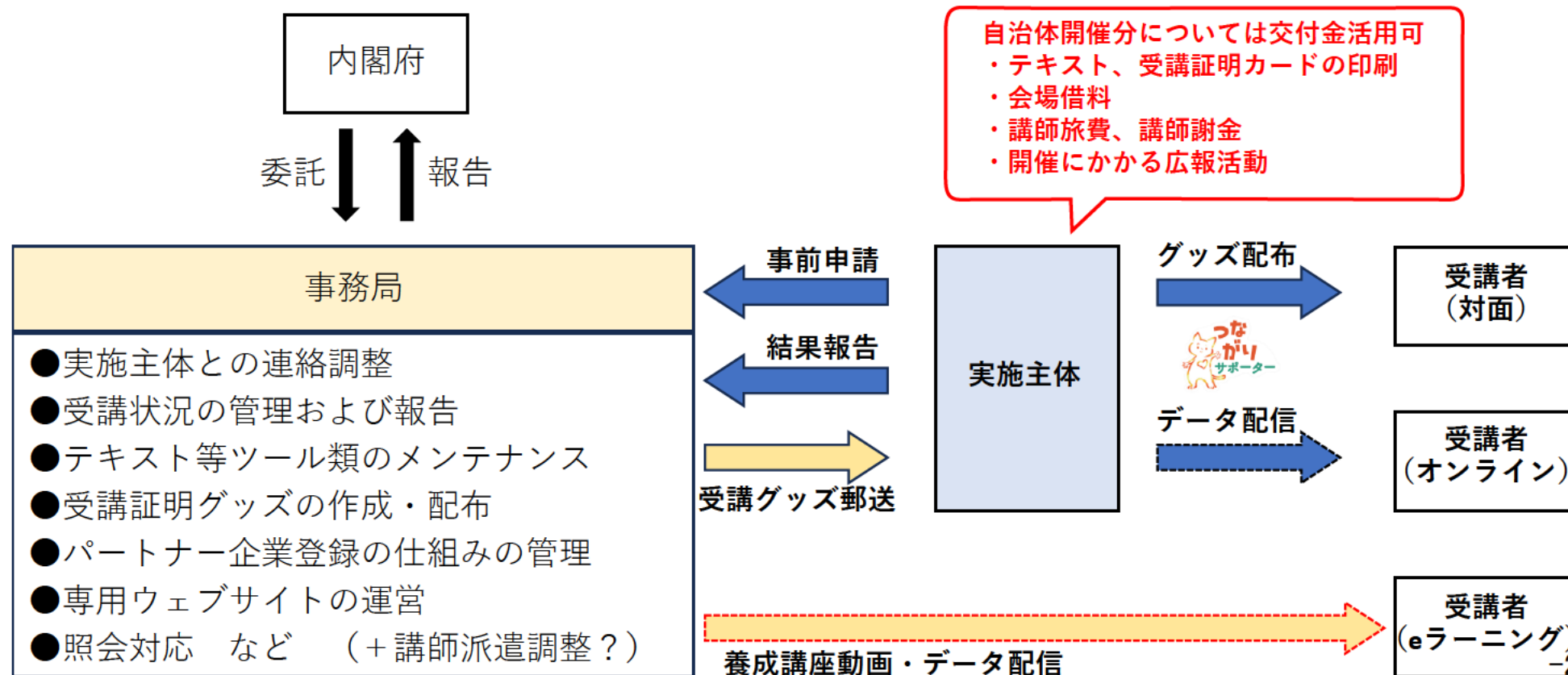
【課題】 一方で、事務局機能を担ってくれる団体の当てがない状態。

→ 【論点】 事務局機能を設ける場合、どのような団体に引き受けていただくか。

例）調査研究事業の範囲内で受託業者（シンクタンク等）にて対応

例）国PF事務局に追加業務として依頼？

〈つながりサポーター養成フローのイメージ〉



【振り返り】1/15の幹事会での議題

- ①月間特設メタバースの名称について【募集】
- ②月間特設メタバース空間での取組について（案）
- ③周知ポスターデザイン案について【共有】

みんなでアイディアを
出し合って
良い月間にしよう！



意見が出なかったら
悲しいな。。

【月間特設メタバースの名称について】

令和7年度孤独・孤立対策強化月間においても
特設メタバースを設置し、「つながりサポーター養成講座」
「メタバース相談」「各団体の取組紹介」等の実施を予定

（案の1）ぷらっとば～す（R6年度と同じ）

（案の2）新しい名称とする

（例）・「ふわりんく」

・「ゆるりんく」

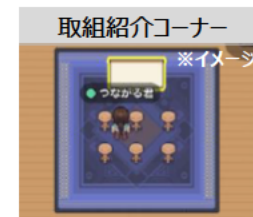
・「ぷらっとリンクル」

・「こころステーション」

・「ゆるぷら☆タウン」 など

（参考）R6月間特設メタバース「ぷらっとば～す」

開設期間：令和6年5月1日（水）～5月30日（木）午前10時～午後6時
※5月2日（木）～6日（月）は相談窓口の受付時間に合わせて開設時間を22時まで延長



⇒事前[※]にメール等で幹事団体に意見を募り、3/19（水）幹事会にて決定予定

※新規の名称案については既存の商標との関係で問題がないか要調査

※幹事会で決定に至らなかった場合はメールにて決選投票

【引き続き募集】特設メタバースでの取組について

- 5/2（金）～11（日）までの10日間、特設メタバース上を開設し、毎日何らかのイベントを開催
- そのうち、GWを中心とした期間は孤独・孤立相談（電話・チャット・メタバース相談等）を実施予定
※ 5日間程度を想定。詳細については分科会3において議論
- その他の期間、NPOや企業等、各団体の参画を得て、各団体の取組を紹介する下記のようなイベントを開催
- **幹事団体のみならず、1団体につき少なくとも1企画への参加を依頼**
※参与の部屋（大西参与との対談）を含む。つながりサポーター養成講座の開催などメタバース外の取組も歓迎

（案）オンライン空間のブースにおける各団体のイベントの例

※各団体のウェブサイト上の企画へのリンクを貼る形での参加も可能

各団体の活動について紹介する
動画やスライド資料等の展示



双方向型の展示

各団体の活動についてクイズ形式などで
インタラクティブに展示



オンラインイベント（講演会）

各団体の孤独・孤立対策の取組や
目指すビジョン等についてZoom等で語る



オンラインイベント（トークセッション）

複数団体がコラボし、Zoom等で
トークセッションを実施



オンラインイベント（体験）

動画配信を見ながら運動、音楽の演奏、
芸術鑑賞など、体験型の企画を実施



リアルイベントの中継

期間中に実施されるリアルイベントを
Youtube Live等で配信



ハイブリットイベントの実施

リアルイベントを中継しながら、
オンライン会場の参加者と交流



協力ゲーム応援イベント

複数人が協力して実施するゲームの
中継を見ながら、ボタンを押すなどして応援
※ゲームは日ごろの活動の中で実施しているもの等



孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム
【分科会 3（第 3 回）】 議事次第

令和 7 年 3 月 1 9 日（金）

1 1 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

（オンライン開催）

○「相談支援に係る実務的な相互連携の在り方」

1 開会

2 議題

（ 1 ） 経過説明

- ・ 令和 6 年度年末年始期間における孤独・孤立相談の実施に関するご報告
- ・ これまでの試行実施結果を踏まえた課題整理および今後の孤独・孤立相談の方向性に関して

（ 2 ） 意見交換

（ 3 ） その他

3 閉会

分科会 3（第 3 回） プログラム

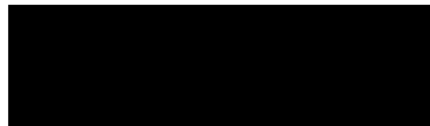
■日 時 令和 7 年 3 月 19 日（水）15：00～16：00

■開催方法 Microsoft Teams ズームを活用したオンラインミーティング

■プログラム

時間	項目	担当（進行）	資料
15:00～	プログラムおよび配布資料の説明	内閣府	有（議事次第）
15:02～ （23 分）	経過説明	社会的包摂サポ ートセンター /内閣府	有
15:25～ （30 分）	意見交換	大西参与 /担当幹事	無
15:55～	事務連絡	内閣府	無

令和 6 年度 年末年始
孤独・孤立相談ダイヤル
実施報告書



1. 令和6年度 年末年始 孤独・孤立相談ダイヤルの体制等

(1) 調査研究の目的

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム関係団体が連携して統一的に電話相談を受け付ける新たな窓口体制の試行を行い、相談支援機関の連携強化と相談から具体的支援につなぐ体制の確立と効率化を図り、将来に向けた統一的・総合的な相談支援体制の構築に必要なデータの収集および分析・検証結果を提供することを目的とする。

(2) 電話相談期間

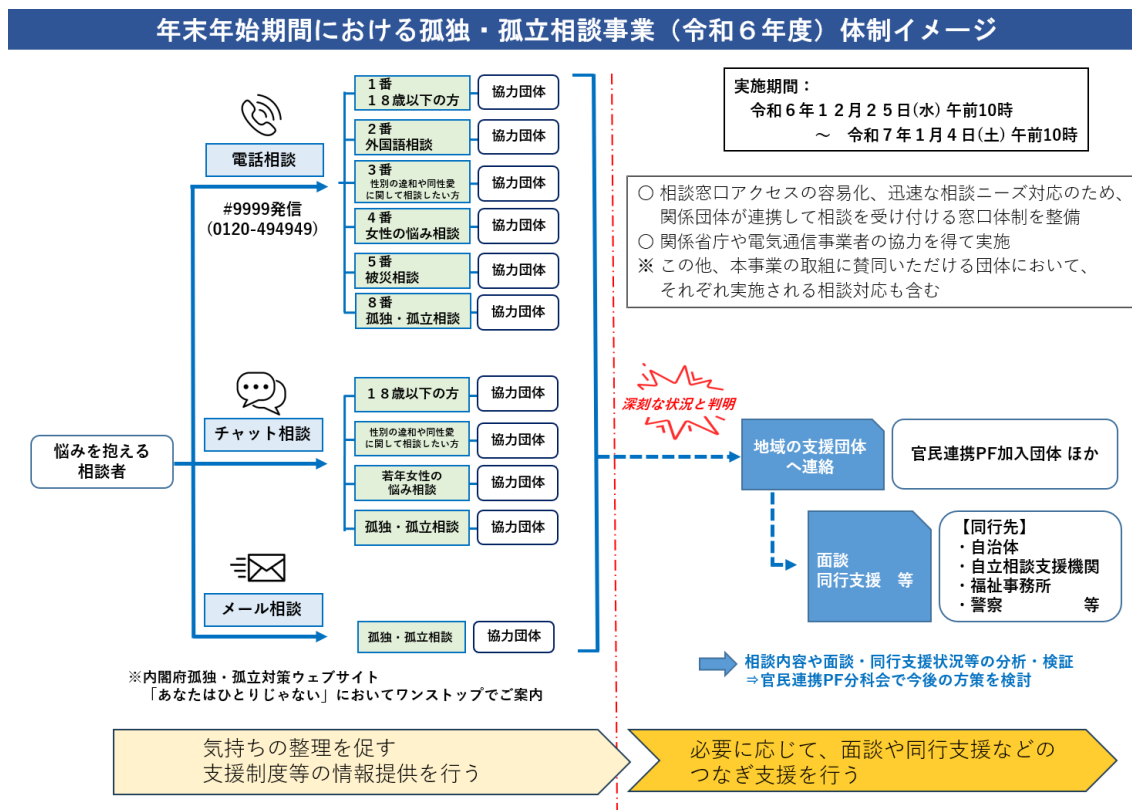
2024年12月25日(水) 10:00 ～ 2025年1月4日(土) 10:00

(3) 協力団体

16団体 71拠点

	団体名	拠点数
1	特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター	14
2	特定非営利活動法人虹色のかさ	1
3	特定非営利活動法人 NPO ホットライン信州	2
4	一般財団法人メンタルケア協会	16
5	一般社団法人群馬県社会福祉士会	1
6	社会福祉法人生活クラブ	1
7	社会福祉法人グリーンコープ	1
8	特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス	1
9	特定非営利活動法人抱樸	1
10	公益社団法人鹿児島県社会福祉士会	1
11	一般社団法人栃木県社会福祉士会	3
12	一般社団法人日本いのちの電話連盟	5
13	日本産業カウンセラー協会	16
14	一般社団法人 宮城県社会福祉士会	1
15	メンタルケア協議会	1
16	NPO 法人 あなたのいばしょ	1
17	NPO 法人しんぐるまざーずふぉーらむ	1
18	社会的包摂サポートセンター	6

(4) 相談対応のイメージ図と実際の流れ



① 電話システム

- ・ NTT のフリーダイヤルシステムを活用したダイレクトに電話(携帯・固定)に接続する方法と、NTT「Direct Calling」に Microsoft 社の Teams を組み込んだ「オンラインの電話対応」の2種類を実施
- ・ 「ことのはダイヤル」
 - ・ AI を活用して「気持ちを語っていただくだけの」回線を設置

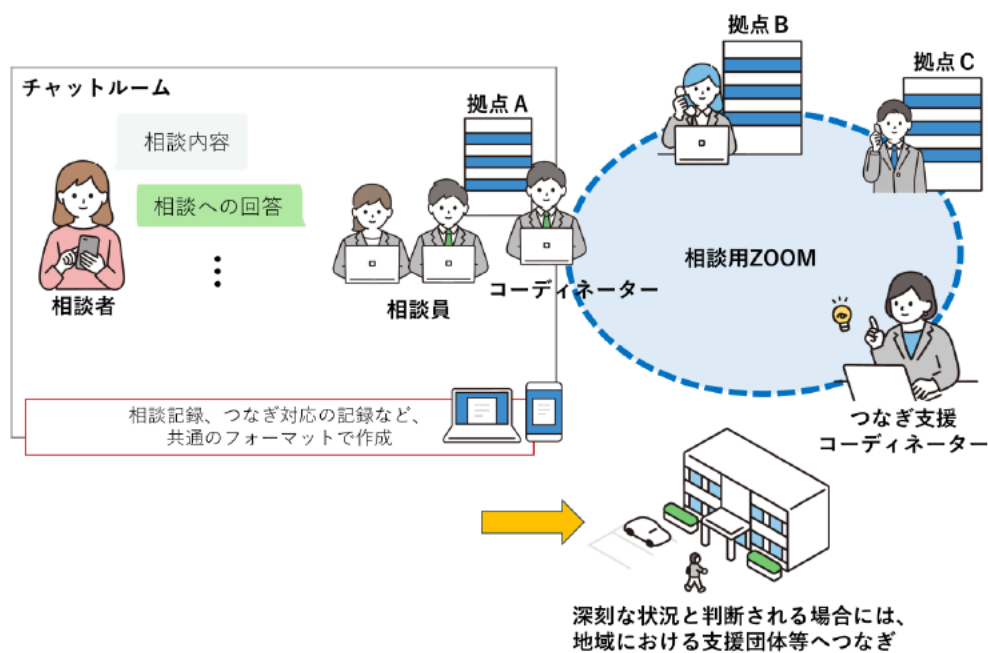
② チャットシステムおよび相談表システム

- ・ 独自に開発したシステムで実施。チャット相談の導入に伴ってすべての相談表もシステム化

③ 相談員とコーディネーターの連携

相相談は各拠点(オンライン含む)で電話やチャット相談を受け、「つなぎ支援」対応のために各拠点のコーディネーターと「つなぎコーディネーター」がオンラインビデオチャット環境(固定された Zoom)に参加して困難事例に対応。

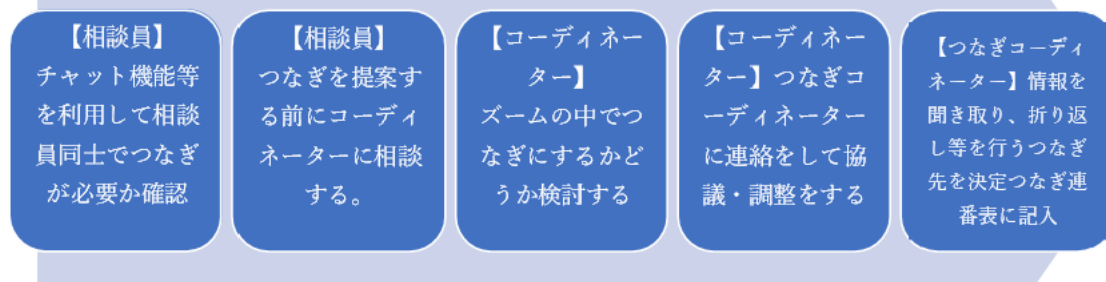
相談対応のイメージ



2

④つながり支援

「つながり支援」が必要な場面では、待機する「つながり支援コーディネーター」と相談員が協議し、地域の支援団体への支援要請、訪問面談、同行支援等に対応。

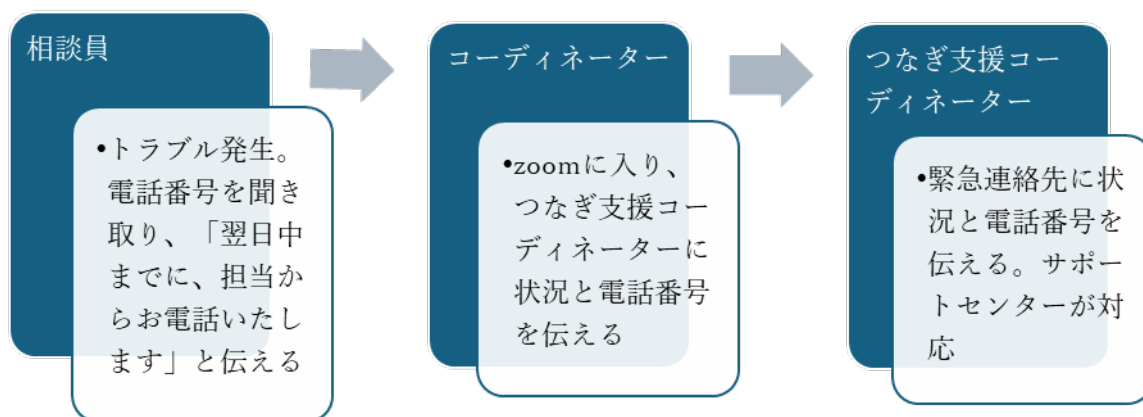


⑤つなぎ相談の記録

つなぎ支援表は「キントーン」（クラウド型業務アプリ開発プラットフォーム）上で管理。

⑤お客様窓口の設置

クレーム等トラブル対応が必要な架電があった場合は、電話番号を聞き取り、お客様窓口の担当から「翌日中までに」折り返し電話をする体制とした。



（５）電話回線数

実施期間中における、孤独孤立でお悩みの方の窓口の時間帯ごとの平均回線数は、以下のとおり。最小で２回線、最大で１１回線であった。

相談種別	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
電話	何でも相談 1																								
	何でも相談 2																								
	何でも相談 3																						何でも相談 3		
	何でも相談 4																						何でも相談 4		
	何でも相談 5																						何でも相談 5		
	何でも相談6																						何でも相談6		
	何でも相談 7																						何でも相談 7		
	18歳以下																								
	女性相談																								
	被災																								
						セクシュアルマイノリティ相談																			
外国語相談（留守電対応）																									
SNS チャット相談						何でも相談（SNSチャット相談）																			
						何でも相談（SNSチャット相談）																			
						18歳以下																			
						セクシュアルマイノリティ相談																			
						18歳以下（若女）																			
メール相談	メール相談（なんでも相談）																								

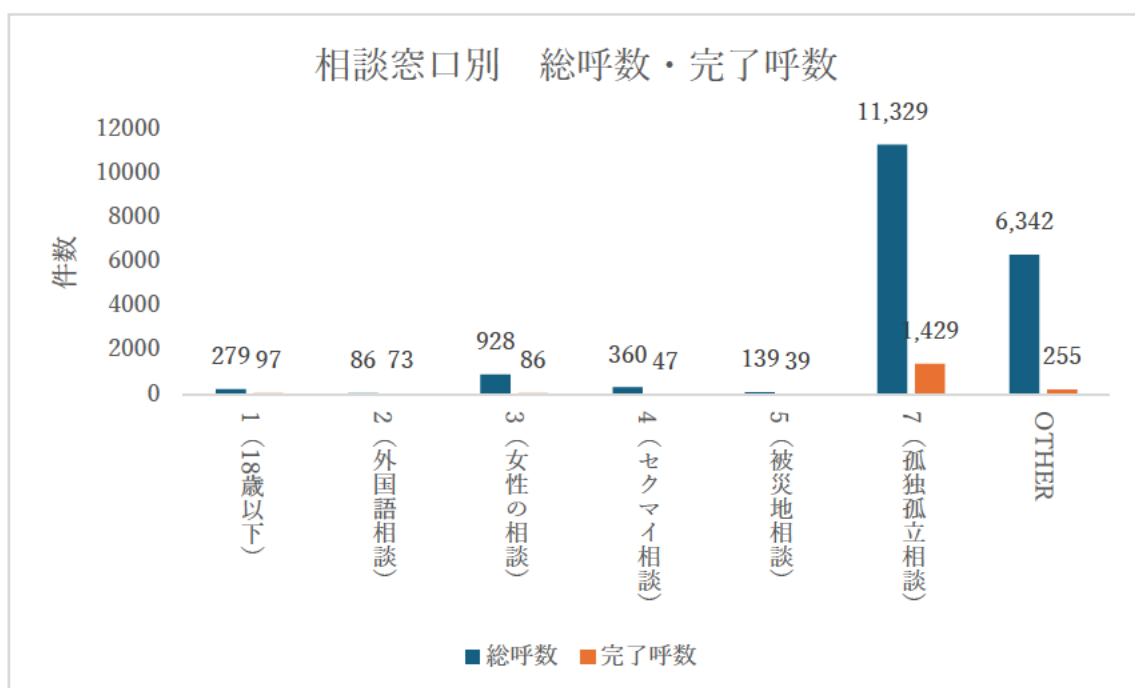
(6) 総架電数等

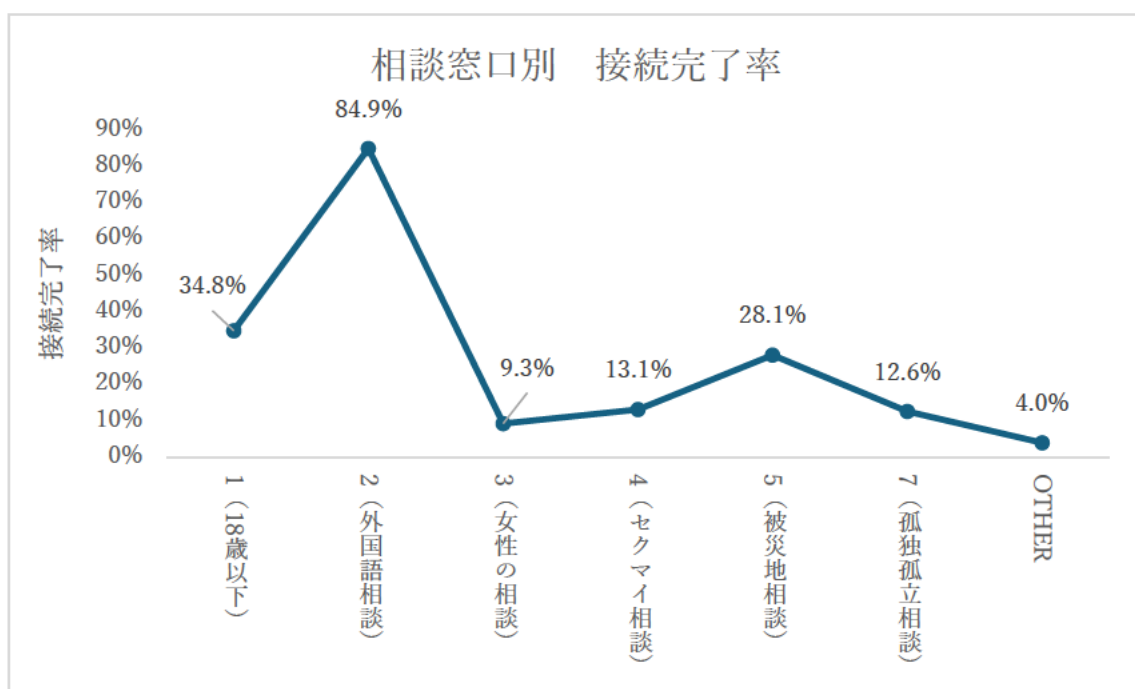
【相談窓口別 架電数】

総架電数は 19,463 件、応答件数は 2,026 件、応答率は 10.4%であった。応答件数の中には、ワン切り等相談として成立しなかったコール数も含まれる。

相談窓口別にみると、孤独孤立相談（7 番）での相談件数が最も多く、次いで女性相談（3 番）が多かった。

相談窓口別	総呼数	完了呼数	接続完了率
1（18 歳以下）	279	97	34.8%
2（外国語相談）	86	73	84.9%
3（女性の相談）	928	86	9.3%
4（セクマイ相談）	360	47	13.1%
5（被災地相談）	139	39	28.1%
7（孤独孤立相談）	11,329	1,429	12.6%
OTHER	6,342	255	4.0%
合計	19,463	2,026	10.4%

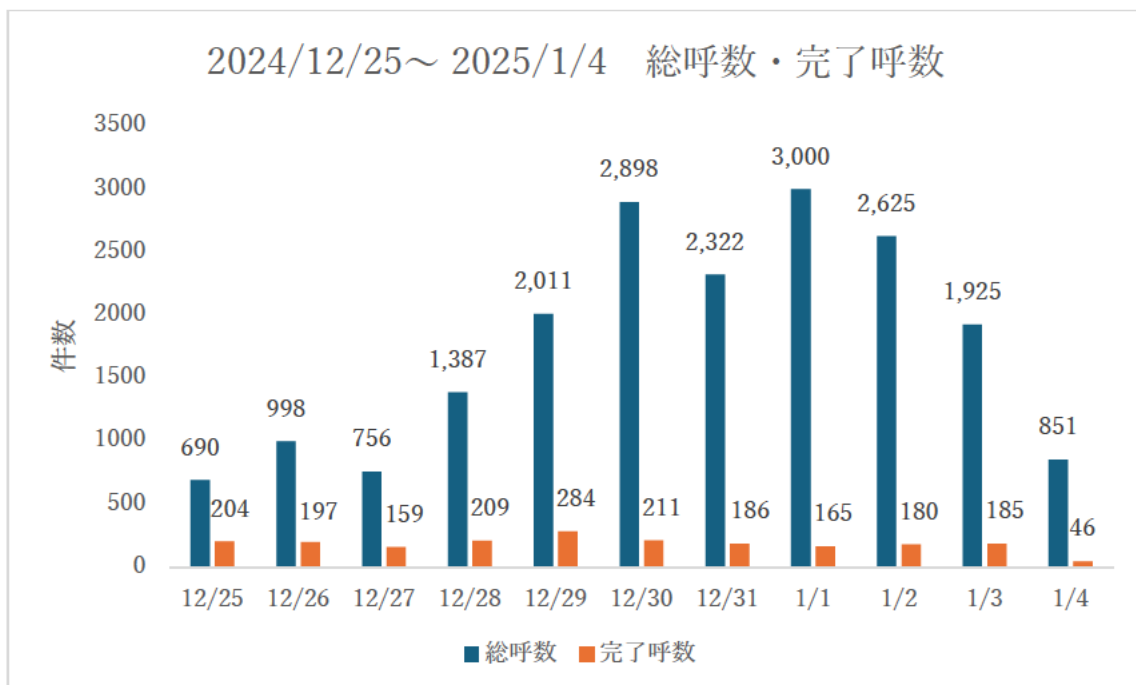


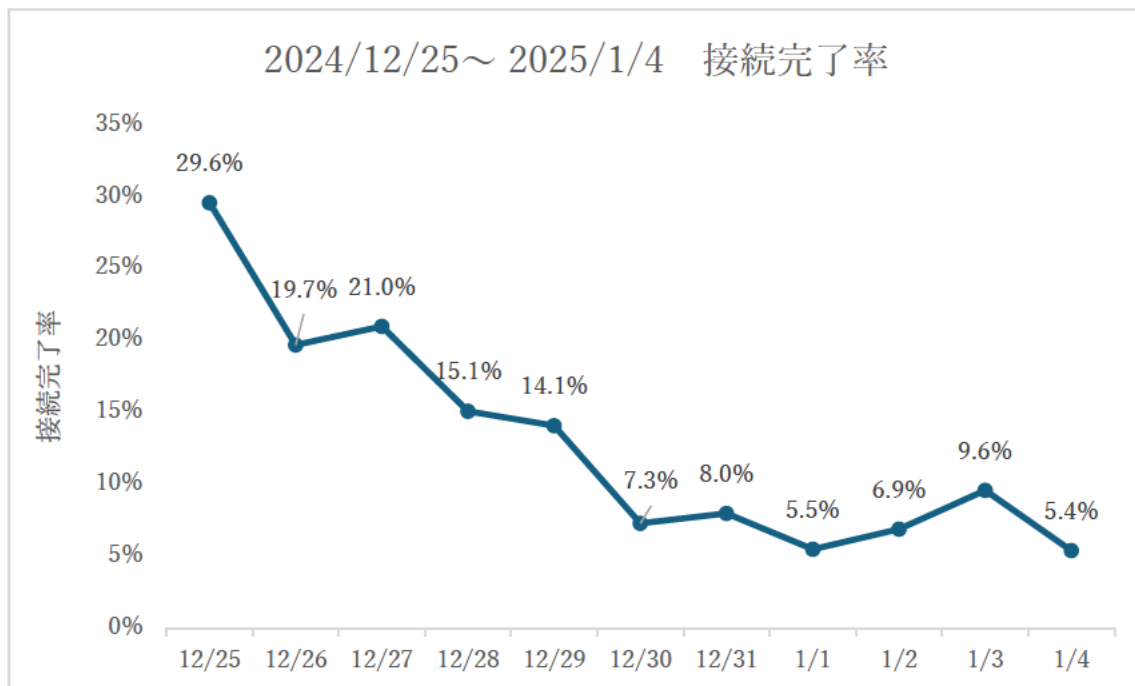


【日時別 架電数】

日別にみると、1月1日が最も相談件数が多く、次いで12月30日が多かった。応答率については、12月25日が最も高かった。

照会区間	総呼数	完了呼数	接続完了率
2024年12月25日	690	204	29.6%
2024年12月26日	998	197	19.7%
2024年12月27日	756	159	21.0%
2024年12月28日	1,387	209	15.1%
2024年12月29日	2,011	284	14.1%
2024年12月30日	2,898	211	7.3%
2024年12月31日	2,322	186	8.0%
2025年1月1日	3,000	165	5.5%
2025年1月2日	2,625	180	6.9%
2025年1月3日	1,925	185	9.6%
2025年1月4日	851	46	5.4%
合計	19,463	2,026	10.4%





【時間帯別 架電数】

全体的に孤独孤立相談の相談件数が多く、19時から23時にかけての時間帯において、相談件数が多かった。

18歳以下の相談および女性相談については、10時から15時にかけての時間帯において相談数が多かった。

2. 相談支援の概要

(1) 相談員数等

参加相談員数：延べ 305 人

参加コーディネーター数：延べ 129 人

参加つなぎ支援コーディネーター：延べ 26 人

システム管理者：延べ 25 人

(2) 相談記録

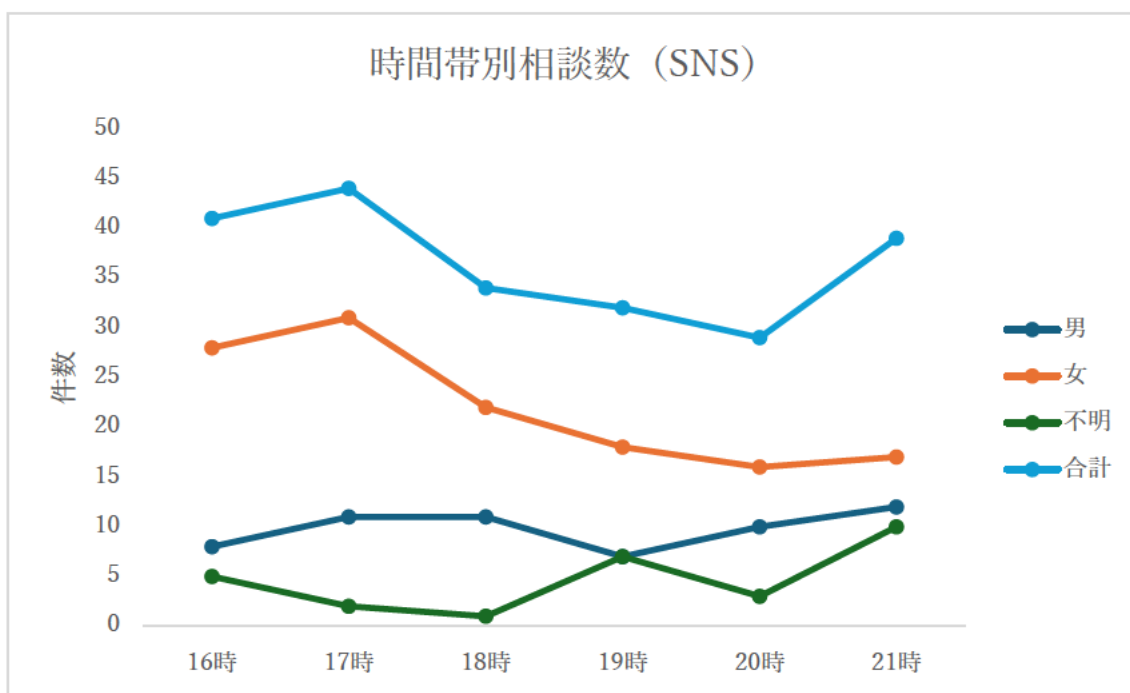
- ・ 電話相談における起票件数：1,531 件であった。そのうち、つなぎ支援件数は 13 件、食料支援件数は 6 件であった。
- ・ SNS 相談における起票件数：250 件、メール相談における起票件数：38 件であり、ともにつなぎ支援、食料支援にはつながらなかった。
- ・ 起票された相談記録の内、以下条件の記録を除いた記録を集計対象とし、今回の集計対象記録は電話相談：1,293 件、SNS 相談：219 件、メール相談：37 件としている。
 - 期間外（～2024/12/25 9:59、2025/1/4 10:00～）データ
 - 自由記述欄や属性、項目などに記載のないデータ
 - 重複データ

・分析対象とした相談数の内訳

* SNS 相談における時間帯別の相談件数

SNS 相談において、女性が利用する時間帯は 16 時～17 時が多く、男性が利用する時間にはあまりバラつきは見られなかった。

開始時刻	男	女	不明	合計
16 時	8	28	5	41
17 時	11	31	2	44
18 時	11	22	1	34
19 時	7	18	7	32
20 時	10	16	3	29
21 時	12	17	10	39
合計	59	132	28	219



(3) つなぎにつながった相談者の状況（一部抜粋）

- ・体調不良があり、てんかん性障害を持っている。整形外科、精神科の受診歴あり。感情に起伏があり周囲とのコミュニケーションがうまくとれない。

- ・突発的に死にたくなる。一日を乗り越えるので精いっぱい。頼れる人がおらず行政にも断られた。

- ・5年前に仕事をくびになり、そこから無職。母親の年金・家賃収入で生活。携帯の借金を払えず困っている。一日100円程度で生活している。

- ・一人暮らしで、財布に500円しかなく、ここ3日間食べていない。生活保護を受けているがお金を足りない。父親の借金を肩代わりしている。子どもはいるが頼れない。

- ・息子の食べるものがない。息子（透析患者）は一人暮をしていて派遣労働者をしている。すぐに息子が食料を受け取れるところを知りたい。

- ・無一文でここ数日食事を摂れておらず、お金に困っており、水・電気も止められた。地元の相談窓口には以前対応を断られた。今日、明日のお金と食事支援窓口を紹介してほしい。

- ・父が亡くなり、母が認知症となり老人ホームに入所、姉は市内に嫁いでいる。相談者は40代から障害者施設に入所中。母・姉に会えず孤独。障害者施設の費用は相談者の貯金、障害年金で支払っている。この施設を出ないといけなくなったらと思うと不安。

3. 相談者のプロフィール

相談者のプロフィールについて、支援員が確認できた内容を以下に集計した。

※割合は、支援員が確認できた数を N としているため変動する。

年代については、30 歳未満と推定若年を若年層、40～50 代と推定中年を中年層、60 代以上と推定高年を高年層と定義している。

【年代】

電話相談は、50 代からの相談が 22%と最も多い。年齢層別でみると、中年層からの相談が 54%と最も多く、次いで高年層からの相談が 29%と多くなっており、推定を含む中高年層からの相談が全体の 83%を占めていた。

SNS 相談は、18 歳未満からの相談が最も多く、電話相談よりも多い結果となった。次いで 30 代からの相談が多かった。年齢層別でみると、若年層からの相談が 68%と最も多く、次いで、中年層からの相談が 29%と多かった。

メール相談は、40 代からの相談が 13 件と最も多く、全体の 37%であった。

【電話相談回線別_年代】

電話相談の孤独孤立相談では、50 代からの相談が 227 件と最も多く、23%を占めていた。年齢層別でみると、中年層からの相談が 53%と最も多く、次いで高年層からの相談が 30%となっており、推定を含む中高年層からの相談が全体の 83%を占めていた。

女性相談では、50 代からの相談が 20 件と最も多く、29%を占めていた。次いで、40 代、60 代からの相談が多かった。一方で 30 代未満の相談者からの相談は 2 件と少なかった。

【SNS 相談回線別_年代】

SNS 相談の孤独孤立相談では、30 代からの相談が 32 件と最も多く、23%を占めていた。次いで、40 代、18 歳未満からの相談が多かった。

【性別】

電話相談では、女性の相談と男性の相談の割合は 5 : 5 であった。

SNS 相談では、女性の相談と男性の相談の割合は 6 : 3 であり女性の相談者は男性の約 2 倍であった。

メール相談では、女性の相談と男性の相談の割合は 5 : 4 であった。

【居住地】

電話相談では、47 都道府県すべてからの相談があり、大都市からの相談が多かった。

SNS 相談では、北海道、次いで東京都からの相談が多く、電話相談と順番が逆転している。

メール相談では、宮城県からの相談が最も多く、次いで、岡山県、大阪府、福井県からの相談が多かった。

【居住形態】

電話相談では、ひとり暮らしの方からの相談が 550 件と最も多く、全体の 53%であった。

SNS 相談では、家族と同居している方からの相談が 66 件と最も多く、全体の 50%であった。

【生活保護受給状況】

電話相談では、生活保護を受給していることが分かった方は全体の 20%であった。

SNS 相談、メール相談では、生活保護受給について把握できたケースは少なかった。

【障がい】

電話相談では、障がいを持っていることが分かった方は全体の 57%であり、全体の 33%が障害者手帳を持っていた。

SNS 相談、メール相談では、障がいの有無について把握できたケースは少なかった。

【仕事】

電話相談では、仕事が無いことが分かった方は全体の 50%であり、仕事があることが分かった方は全体の 21%であった。

SNS 相談、メール相談ともに、仕事の有無を判断できた相談件数のうち、仕事の有無の割合はおおよそ半々だった。

【相談ダイヤルを何で知ったか】（複数選択可）

電話相談では、相談ダイヤルを知った方法について、「その他」が最も多く、全体の 51%を占めていた。

SNS 相談をマスコミから知った方はおらず、マスコミ以外のルートで情報を得ていた。

■相談表集計から

【相談対応の内容】（複数選択可）

電話相談（1,293 件）では、「傾聴」の対応を行っている相談が 1,082 件と最も多かった。次いで、「気持ちの整理を手伝う」588 件、「分かち合う・一緒に考える」574 件が多く、去年度の 5 月の相談と同じ傾向であった。

SNS 相談（219 件）では、「傾聴」の対応を行っている相談が 128 件と最も多かった。次いで、「気持ちの整理を手伝う」84 件、「分かち合う・一緒に考える」78 件が多く、電話相談と同様の傾向であった。

メール相談（37 件）では、「傾聴」の対応を行っている相談が 35 件と最も多かった。また、電話相談、SNS 相談に比べて「有用な情報や知識を提供する」割合が多かった。

対応	電話	SNS	メール
傾聴	1,082	128	35
気持ちの整理を手伝う	588	84	8
分かち合う・一緒に考える	574	78	14
話の整理を手伝う	365	43	7
視野・思考・発想を広げる、緩める	214	25	5
有効な情報や知識を提供する	252	44	15
自己／他社、社会への理解を深める	133	14	2
未記載	170	83	1

（１） つなぎ対応

【つなぎ対応_電話相談】

電話相談において、つなぎの必要性を感じた相談（明確に必要、必要かもしれない）は 30 件で、起票されていた全相談の 9%であった。提案して受け入れられた相談は 13 件であった。

つなぎ判断	件数
明確に必要	11
必要かもしれない	19
不要	295
未記載	968
合計	1,293

【つなぎ対応_SNS 相談】

SNS 相談において、つなぎの必要性を感じた相談は 2 件で、起票されていた全相談の 8% であった。そのうち、提案して受け入れられた相談はなかった。

つなぎ判断	件数
明確に必要	0
必要かもしれない	2
不要	24
未記載	193
合計	219

つなぎ対応	件数
提案して受け入れられた	0
提案したが受け入れられなかった	0
提案できなかった	8

【つなぎ対応_メール相談】

メール相談において、つなぎの必要性を感じた相談はなかった。

【食料支援対応_電話相談】

電話相談において、食料支援の必要性を感じた相談（明確に必要、必要かもしれない）は 10 件で、起票されていた全相談の 4% であった。そのうち、提案して受け入れられた相談は 6 件であった。

食料支援判断	件数
明確に必要	7
必要かもしれない	3
不要	225
未記載	1,058
合計	1,293

【食料支援対応_SNS 相談】

SNS 相談において、食料支援の必要性を感じた相談は 1 件であった。そのうち、提案して受け入れられた相談はなかった。

食料支援判断	件数
明確に必要	1

(3) 孤独・孤立の背景

相談者が相談に至る背景について、社会的な要因と個人的な要因に分けて相談員が確認できた内容を以下に集計した。

※割合は、支援員が確認できた数を N としているため変動する。

① 悩みの背景（社会的要因）

【セクシュアリティ・ジェンダー】

*生まれながらの性別で生活することについての不安や負担

電話相談では、生まれながらの性別で生活することについての不安や負担を感じている方は7%であった。

生まれながらの性別で生活することについての不安や負担	電話	SNS	メール
かなりある	9	0	0
ある	11	4	4
ない	247	6	6
未記載	1,026	209	209
合計	1,293	219	219

*結婚や恋愛することについて不安や負担

電話相談では、恋愛や結婚することについて不安や負担を感じている方は25%であった。

恋愛や結婚することについて不安や負担	電話	SNS	メール
かなりある	22	2	0
ある	49	9	1
ない	210	4	1
未記載	1,012	204	35
合計	1,293	219	37

【経済的な悩み】

*生活をするための収入を得ることについて不安や負担

電話相談では、生活をするための収入を得ることについて不安や負担を感じている方は49%で約半数を占めていた。

生活をするための収入を得ることについて不安や負担	電話	SNS	メール
かなりある	40	6	2
ある	151	8	4
ない	196	5	1
未記載	906	200	30
合計	1,293	219	37

【私的ケアネットワークについての悩み】

* 困った時やピンチの時に教えてくれる身近な人

電話相談では、困った時やピンチの時に支えてくれる身近な人が全くいない方は21%で、いるが頼れていない（いるが気が進まない、いるが頼れない）方が47%であり、約半数を占めていた。

困った時やピンチの時に支えてくれる身近な人	電話	SNS	メール
いる	142	10	1
いるが気が進まない	75	16	1
いるが頼れない	168	15	2
いないが制度利用方法がわかっている	21	2	0
全くいない	107	11	1
未記載	780	165	32
合計	1,293	219	37

【差別や偏見についての悩み】

* 差別や偏見についての悩み_電話相談

電話相談において、「障害や病気」に関する差別や偏見を感じる悩みが最も多く、去年の5月と同様の結果となった。

差別や偏見についての悩み_電話相談	ない	不利	不利益が明らか
障害や病気	117	140	129
学歴や職歴	175	32	5
犯罪歴	177	2	1
家族背景や生まれ（犯罪、障がい、国籍、学歴、被差別部落など）	165	32	47
外国人・国籍	181	4	0

その他の差別	170	27	9
--------	-----	----	---

*** 差別や偏見についての悩み_SNS 相談/メール相談**

SNS 相談においても、「障害や病気」に関する差別や偏見を感じる悩みが最も多かった。

メール相談において、差別や偏見を感じる悩みについては、「障害や病気」、「家族背景や生まれ」、「その他の差別」があった。

差別や偏見についての悩み_SNS 相談	ない	不利	不利益が 明らか
障害や病気	1	10	4
学歴や職歴	0	4	0
犯罪歴	0	0	0
家族背景や生まれ（犯罪、障がい、国籍、学歴、 被差別部落など）	0	12	0
外国人・国籍	2	0	0
その他の差別	0	4	4

差別や偏見についての悩み_メール相談	ない	不利	不利益が 明らか
障害や病気	1	1	0
学歴や職歴	1	0	0
犯罪歴	1	0	0
家族背景や生まれ（犯罪、障がい、国籍、学歴、 被差別部落など）	1	1	0
外国人・国籍	1	0	0
その他の差別	1	1	0

【自己受容に関する悩み】

電話相談において、自己否定がある（強い自己否定の常態化、時々強い／慢性的自己否定）方は、53%であった。

自己受容に関する悩み	電話	SNS	メール
強い自己否定の常態化	56	10	0
時々強い／慢性的自己否定	173	25	2
あまりない	200	6	1

未記載	864	178	34
合計	1,293	219	37

【メンタルヘルスの悩み】

* 精神疾患

電話相談において、精神疾患で診断がある方は74%であり、診断が無いものも含めれば84%にも上る。

精神疾患	電話	SNS	メール
診断ありつらい	395	27	9
診断なしつらい	56	8	2
なし	85	2	0
未記載	757	182	26
合計	1,293	219	37

* アディクション

電話相談において、複数または単数のアディクションを抱えている方は、22%であった。

アディクション	電話	SNS	メール
複数あり問題となっている／一つでも大きな問題 になっている	52	9	0
あるが大きな問題でない／今ないが過去に問題	35	2	1
あまりない	155	1	1
未記載	1,051	207	36
合計	1,293	219	37

* ストレス

電話相談において、ストレスを感じている（強いストレス、時々強い/慢性的なストレス）方は90%であった。

ストレス	電話	SNS	メール
常に強いストレス	164	22	0
時々強い/慢性的なストレス	375	58	14
あまりない	58	0	0
未記載	696	139	23

合計	1,293	219	37
----	-------	-----	----

【社会的責任や役割についての悩み】

* ケアラー負担

電話相談において、日常的にケアを担っている（重いケアが日常化、ケアが日々ある/過去に思いケア経験）方は 29%であった。

ケアラー負担	電話	SNS	メール
重いケアが日常化	15	3	0
ケアが日々ある/過去に重いケア経験	61	13	1
特にない	190	1	1
未記載	1,027	202	35
合計	1,293	219	37

* 社会的負担

電話相談において、社会的負担が重いと感じる（重い役割が恒常化、日々ある/過去に重い役割があった）方は 14%であった。

社会的役割負担	電話	SNS	メール
重い役割が恒常的	6	3	0
日々ある/過去に重い役割があった	30	11	1
特にない	217	2	1
未記載	1,040	203	35
合計	1,293	219	37

② 悩みの背景（個人的要因）

【感覚・感情の困難について】

* 興味関心の偏り

電話相談において、66%の方が自身の興味関心に偏りを感じている。

興味関心の偏り	電話	SNS	メール
かなり感じる	93	5	1
感じる	186	21	2
感じない	142	8	2
未記載	872	185	32
合計	1,293	219	37

* 繊細さ・過敏さ

電話相談において、81%の方が繊細さ・過敏さに悩んでいる。

繊細さ・過敏さ	電話	SNS	メール
かなり感じる	137	20	0
感じる	287	46	5
感じない	101	1	1
未記載	768	152	31
合計	1,293	219	37

* 自分軸・他人軸

電話相談において、他人の意向に合わせて行動してしまうと考える方が35%であった。

自分軸・他人軸	電話	SNS	メール
自分軸がある	288	10	0
他人軸優位	122	27	3
かなり他人軸	32	21	0
未記載	851	161	34
合計	1,293	219	37

* 感情の極端さ

電話相談において、感情が麻痺したり、強すぎたりすると感じている方は57%であった。

感情の極端さ	電話	SNS	メール
強すぎ／強い麻痺	66	7	0
強い／麻痺がある	191	35	2
感じない	194	11	1
未記載	842	166	34
合計	1,293	219	37

【行動面の困難について】

* 集団適応

電話相談において、集団行動が困難である方は、68%であった。

集団適応	電話	SNS	メール
かなり困難がある	89	2	1
困難がある	200	18	3
ない	139	3	1
未記載	865	196	32
合計	1,293	219	37

* 人付き合い

電話相談において、人付き合いが困難な方は76%であった。

人付き合い	電話	SNS	メール
かなり困難がある	114	2	0
困難がある	265	22	7
ない	124	5	2
未記載	790	190	28
合計	1,293	219	37

* TPO 配慮

電話相談において、TPO に悩む方は52%であった。

TPO 配慮	電話	SNS	メール
かなり困難がある	44	1	0
困難がある	122	3	2
ない	156	3	1
未記載	971	212	34
合計	1,293	219	37

【成育経験の困難について】

* 愛着や信頼関係

電話相談において、愛着や信頼関係に困難がある方は、60%であった。

愛着や信頼関係	電話	SNS	メール
かなり困難がある	67	5	0
困難がある	136	19	2
ない	134	1	1
未記載	956	194	34
合計	1,293	219	37

* トラウマの影響

電話相談において、トラウマに悩んでいる方は52%であった。

トラウマの影響	電話	SNS	メール
かなり困難がある	54	4	0
困難がある	105	9	1
ない	149	0	1
未記載	985	206	35
合計	1,293	219	37

2024年度年末年始チャット相談統一窓口ハンドリング振り返り

2025年2月14日

特定非営利活動法人あなたのいばしょ

1, 参加日時

2024年12月31日 16時－22時

2025年1月1日 16時－22時

2, 参加者

コーディネーター役：2名

相談員：4名（2日間） 1名（1日）

3, 相談件数

12月31日 19件 （未対応7件、時間切れ2件含む）

1月1日 12件 （未対応5件、時間切れ0件含む）

4, 振り返り

（1）事前準備について

- ・PC2台は有効に使えた人と、1台で十分だった人がいた（コーディネーター役は2台必要と思われる）
- ・マニュアルが事前に共有されていた方が当日スムーズである
- ・システムに事前に触る時間がもっとあれば当日スムーズである

（2）環境について

- ・zoomのブレイクアウトルームが個社別にあると思っていたがSNS相談全員が同じブレイクアウトルームであったため、コミュニケーションがとりづらかった
- ・コーディネーターに相談をしたくても他社の方がいる手前、遠慮する時があった
- ・周りの人の会話で集中できない時があった
- ・自分の相談が見られていたことと、zoomに6時間入ったの業務なので緊張した（相談員）
- ・待機中は画面オフにして、相談対応が始まったら画面オンにしてもらうなど柔軟性があってもいいだろう

（3）マニュアルについて

- ・当日手順が変わることがあったが、コーディネーター同士でその妥当性について検討をしてから意見していた
- ・応答と対応で相談記録表の書き方が違ったが、マニュアルになかったので対応しきれない部分があった。
- ・相談員が相談記録表を記入後、再度見ると入力したデータが初期化されてしまう。確認ができるのはコーディネーターのみだが、訂正ができるのは相談員のみという仕組みは変更してもらいたい。
- ・定型文がマニュアルにあれば事前に手順がより理解できた。

（4）相談システムについて

- ・30秒ごとに自動更新できるシステムであつたらよかった。（数秒ごとに手で更新をしないと相談が入ってこない状況だった）

- ・既読がつかなかったのも、反応に苦慮した（法人システムは既読がつく）
 - ・担当者にならないと相談の中身が見えず、主訴が見えないシステムのため、コーディネーターは内容全体を把握できないまま、相談員へ振り分けることとなった
 - ・相談者の気になる発言にはピン止めができた。（相談員側しかできない）
- ピン止めはポップアップで固定されるのでさかのぼる必要がないシステムはよかった。

（５）相談内容について

- ・家族との関係、精神疾患、障がい者の相談が多かった
- ・相談員の対応は上手だったので、任せることの方が多かった
- ・常に周りから見られている経験が相談員にはないので緊張した（相談員）
- ・「つなぎ」というワードの定義が不明瞭で、実際つなぐのはどういったタイミングなのかどういった状況でつなぎに至るのか、つかめないまま終了しました。（相談員）
- ・マニュアルに「つなぎ」という言葉が多く、それを気にするあまり傾聴しきれなかった部分がある。（相談員）
- ・日中と夜で相談の質が違うことがわかったので、法人に戻ったら夜も入ろうと思う（相談員）

（６）相談振り分けについて

- ・コーディネーター役から先に相談を振る順番を相談員と共有しおいたほうが、相談員側で心づもりができたと思う
- ・21:30から相談が増えていったが、21:45にとった相談は15分で終了せざるを得なかった。（窓口を20時～夜中といった時間帯へ移行したほうがいいかと思う）
- ・全体の流入数が少なかったので待機時間の方がなかったように感じる
- ・コーディネーターは相談画面の更新、相談内容のチェック、相談員のフォローやつなぎ支援担当との会話で相談を取ることでできなかったできなかった
- ・トイレなども考え、コーディネーターは2名いたほうがいだろう

5、良かった点

- ・キントーンが使いやすかった（稼働実績、Q & Aチャンネル、共有事項のチャンネル）
- ・長い時間一緒にいたので相談員同士で一体感を感じた
- ・研修動画視聴時間や説明会参加時間も費用を請求できるところは良いと思った

6、来年度への提案

- ・zoomは個社別に分けてもらったほうが相談員がよりリラックス・集中して対応ができただろう
- ・マニュアルの共有をもう少し早めにしてもらいたい
- ・当日の手順変更の翌日以降の共有の仕方を工夫する必要がある
- ・相談記録表のシステムと運用の見直し（初期化されないしくみ、コーディネーターも入力できるシステム）
- ・ダミーでもいいので相談システム遷移画面を先に共有してもらいたい
- ・相談システムの使い勝手（既読マーク、流入のタイミング）
- ・「つなぎ」手順と「つなぎ先」の情報がマニュアルにあれば相談員もつなぐことも視野に入れながら対応ができる
- ・zoom画面のオンオフなど柔軟にすることで相談員のストレスが軽減できるだろう
- ・窓口開始時間の見直し（夜から夜中へ）

以上

統一的な相談窓口体制の推進

- 長引くコロナ禍や物価高騰等を踏まえ、孤独・孤立で悩む方へのきめ細やかな対応が課題。
- 孤独・孤立に関する個人の悩みは複雑化・多様化。一方、相談窓口は分野やエリアに応じた様々なものが存在。
- 相談窓口へのアクセスの容易化、相談ニーズへの迅速な対応のため、NPOなど関係団体が連携して、**統一的に24時間相談を受け付ける窓口体制**(「**孤独・孤立相談ダイヤル**」#9999)や**相談と支援をつなぐ連携の強化**を試行。

実施体制

- 官民連携プラットフォーム分科会3の担当幹事団体を中心となって本事業の実施に向けて検討、企画。
※分科会3テーマ「相談支援に係る実務的な相互連携の在り方」
- 相談対応、地域での支援について官民連携プラットフォーム加入団体の協力を得る。
- 各自治体、警察、福祉事務所、自立支援機関等へ協力依頼。

協力団体

- 【窓口での相談対応】
相談業務の実績のあるNPO法人・民間団体など
- 【地域での支援対応等】
深刻な状況において面談・同行支援に対応いただける地域の支援団体や、専門分野の支援団体など

実施方法

- 統一番号(＃9999、フリーダイヤル)、統一名称を設定
- 音声ガイダンスにより、利用者が分野を選択し、分野ごとの相談窓口につなげる
分野の例: 孤独・孤立の悩み、女性の悩み、性別の違和、死にたいほどつらい、生活困窮、外国語相談、18歳以下 他
- 相談内容が深刻と判明した場合、地域の支援団体につなげる。
※民間事業者へ委託し、各協力団体の相談員等の謝金等の支払い、シフト表の調整、相談記録の整理等を行う。
※相談記録票、相談対応の基本方針やつなぎ先のマニュアルを作成、共有。⇒ 分析・検証に生かす
- 各期ごとに手法の改善を行いつつ、相談から支援につなぐモデルの構築に重点を置いた試行を行う。

実施時期

令和4年	7月 7日	第1期開始(1週間)
	8月30日	第2期開始(1週間)
	12月 1日	第3期開始(1日)
	12月28日	第4期開始(1週間)
令和5年	12月15日	第5期開始(3週間)
令和6年	5月 2日	第6期開始(5日間)
	12月25日	第7期開始(10日間)

分析・検証、成果

- 応答率、利用者数の時間帯別等の変化、年代等の属性、相談分野や対応の種類(傾聴、情報提供・助言、面談、同行支援、関係機関との連携など)ごとの状況等を分析、検証。
- 相談窓口の効果的な連携体制やスムーズな相談から支援へのスムーズな連携・引継ぎの在り方を整理。人材育成の強化に必要な方策も整理。

統一的な相談窓口体制の推進

第1期の状況

実施時期：令和4年7月7日～7月14日（1週間）

- 呼出件数：**14,678件**、接続完了：**3,823件**、応答率：**26.0%**
- 利用者が選択できる分野は8、以下の順に多かった。
①**孤独・孤立での悩み** ②**死にたいほどつらい気持ち** ③**生活困窮**
- つなぎに関して調整した深刻な相談対応：38件
- 相談者の年代（推定）は、中高年の利用が8割。
- 相談の類型は、心の病気や不調、自分の悩みを話せる場所がない、暮らし・お金、家庭や家族、同居人との関係、死にたい・消えたい気持ちの順に多かった。

第2期の状況

実施時期：令和4年8月30日～9月6日（1週間）

- 呼出件数：**10,353件**、接続完了：**1,998件**、応答率：**19.3%**
- 利用者が選択できる分野は8、以下の順に多かった。
①**孤独・孤立での悩み** ②**死にたいほどつらい気持ち** ③**生活困窮**
- 応答率は、**孤独・孤立：27.3%（10.5%）**（※（ ）は第1期）
死にたいほどつらい気持ち：78.6%（86.9%）
生活困窮：47.1%（12.6%）
- つなぎに関して調整した深刻な相談対応：30件

第3期の状況

実施時期：令和4年12月1日～12月2日（1日）

- ねらい：いのちの日に合わせ、「孤独・孤立での悩み」に特化した相談日とし、広く協力を募り体制を強化するとともに、体制強化と合わせ、効果的に広報。
- 呼出件数：**813件**、接続完了：**489件**、応答率：**60.1%**
（参考）18歳以下 呼出件数 65件（49件）
- 利用者が選択できる分野は2
応答率は、18歳以下：**60.0%（26.5%）**（※（ ）は第2期）
18歳より上：**78.4%（27.3%）**
- つなぎに関して調整した深刻な相談対応：12件

第4期の状況

実施時期：令和4年12月28日～令和5年1月4日（1週間）

- ねらい：既存の窓口の多くが閉まり、利用者のニーズが高まる時期に実施。
- 呼出件数：**26,567件**、接続完了：**1,165件**、応答率：**4.4%**
- 利用者が選択できる分野は3
応答率は、18歳以下：**57.8%**
性別の違和等**18.3%**
孤独・孤立：6.1%
- つなぎに関して調整した深刻な相談対応：17件

第5期の状況

実施時期：令和5年12月15日～令和6年1月4日（3週間）

- ねらい：クリスマスや既存の窓口の多くが閉まる年末年始の期間を含む20日間で実施。
- 呼出件数：**34,315件**、接続完了：**3,032件**
- 応答率：全体**8.8%** 18歳以下：**65.4%**、女性の悩み：**18.8%**、性別の違和等：**30.6%**、孤独・孤立：**20.2%**
- つなぎに関して調整した深刻な相談対応：36件

第6期の状況

実施時期：令和6年5月2日～5月7日（5日間）

- ねらい：既存の窓口の多くが閉まるGWの期間を含む5日間で実施。
※数字は電話のみで暫定値
- 呼出件数：**4,839件**、接続完了：**936件**
- 応答率：全体**19.3%** 18歳以下：**58.5%**、女性の悩み：**14.8%**、被災相談：**52.9%**、孤独・孤立：**19.7%**
- つなぎに関して調整した深刻な相談対応：6件

統一的な相談窓口体制の推進

第7期の状況

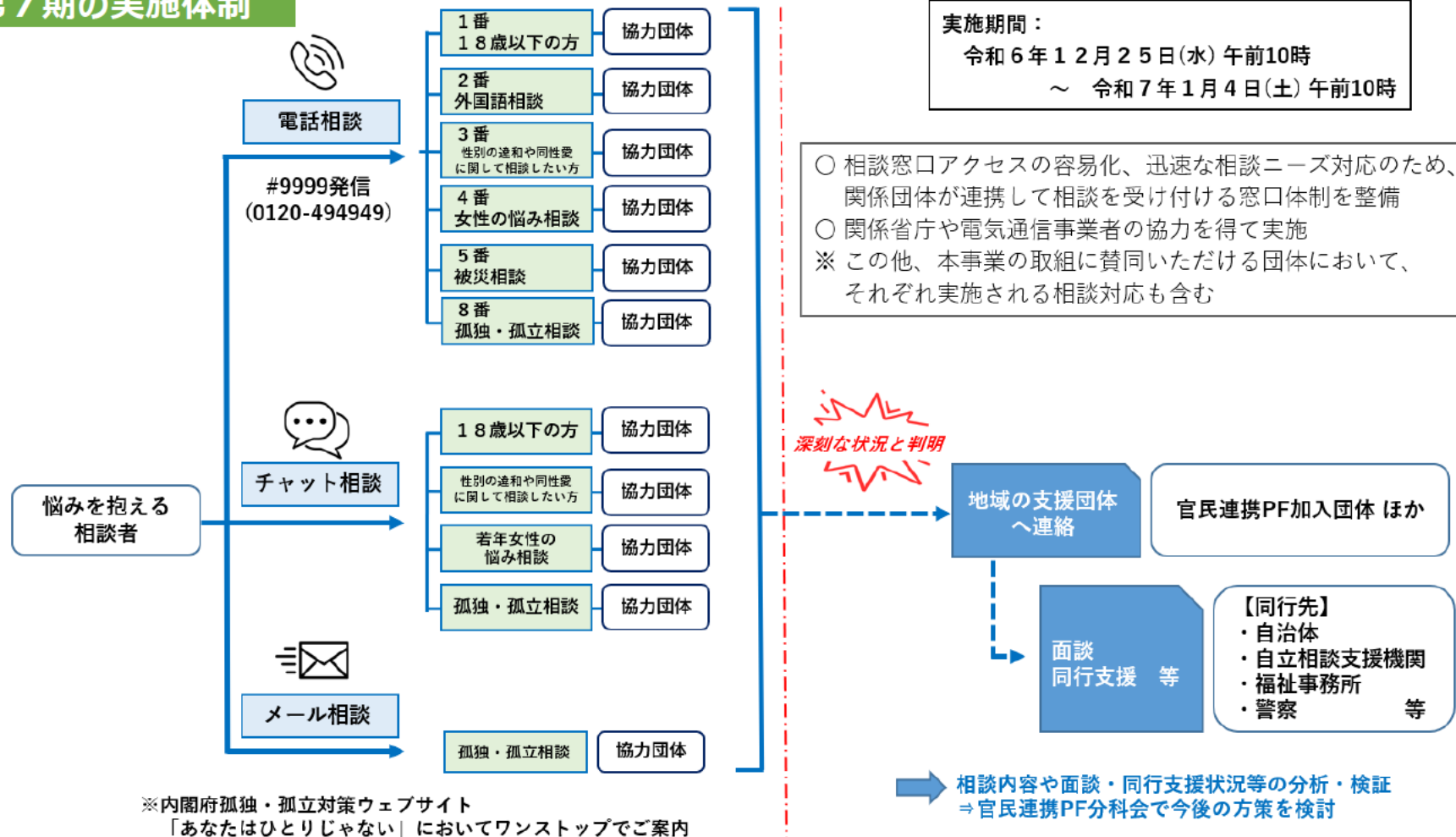
○ねらい：既存の窓口の多くが閉まる年末年始期間の10日間で実施。

○呼出件数：**19,463件**、接続完了：**2,026件**

○応答率：全体**10.4%** 18歳以下:34.8%、セクマイ：13.1%、女性の悩み：9.3%、被災相談：28.1%、孤独・孤立：12.6%

○つなぎに関して調整した深刻な相談対応：37件

第7期の実施体制



気持ちの整理を促す
支援制度等の情報提供を行う

必要に応じて、面談や同行支援などの
つなぎ支援を行う

分科会 3 「相談支援に係る実務的な相互連携の在り方」 中間整理 (R 5. 3. 1 6)

6. おわりに

「相談支援に係る実務的な相互連携の在り方」についてのテーマのうち、令和4年度は、統一的な相談窓口の推進（孤独・孤立相談ダイヤル（#9999））試行事業を行いつつ、それを踏まえて検討を行ったことから、主に「ワンストップの相談窓口等の一元的な相談支援体制」の成果や課題、対応案等についての整理が中心となった。

分科会3としては、今後さらに、地域で「相談」と「支援」をつなぐための各主体の連携等についての検討を深めていきたい。

また、「ワンストップの相談窓口等の一元的な相談支援体制」については、対応案を踏まえた試行を今後実施し、その成果や課題を踏まえつつ、本格実施に向けた環境を整えていく必要があると考える。その際、これまでのものも含め相談データや相談内容の更なる分析を行い、相談者像を踏まえた仕組みとすることが重要である。

さらに、中長期的には、地方における孤独・孤立対策のプラットフォームの構築や支援機関間の連携、相談窓口の進展の状況を踏まえつつ、#9999のような統一の入り口から、各地方における孤独・孤立の悩みに対応する相談窓口につなぎ、国においては、各地方における相談窓口が対応していない日中以外の時間帯や相談が集中しやすい特定の期間、専門分野の相談等に重点をおいた体制を組んでいくことを検討していくことが、相談と支援の円滑化の観点から望ましいと考える。

これまでの実施を踏まえた課題と今後の方向性について

過去の試行で出てきた方向性を引き継ぐもの

新たな方向性を打ち出すもの

R4年度4回の試行で把握した課題

相談体制の適切な強化(定期的な実施、必要度の高い時間帯に重点)

音声ガイダンスで選択する分野の適切な設定

若年層の利用促進(SNS等の併用)

相談支援にあたる人材の育成(孤独孤立相談についての実践を踏まえた情報共有)

公的相談支援機関、公的相談ダイヤルとの連携

緊急対応が必要でない相談者の居場所確保

早期からのより広範な周知

3桁番号の導入

R5.12.15～R6.1.4の試行

効果が高かった年末の前後を含む3週間で実施

相談数の多い孤独孤立で1つ回線を設け、その他の専門分野で回線を設定

18歳以下の相談者用の専用回線を設置

前年末の参加団体以上の参加団体にご協力いただいて実施

鳥取県(孤独孤立総合電話相談窓口を設置する唯一の県)が前半の平日日中参加

対応せず

大臣閣議会見、政府広報ラジオ、マスコミ取材対応などによる周知

#9999で対応

R6年度の試行～今後の新たな方向性？

GWと年末年始に集中実施

孤独孤立以外については、電話相談とチャット相談の併用を前提に、適切な回線を設定

電話×チャットの併用型を採用

多くの団体の参画を継続しつつ、人間×AIのハイブリッド型相談を段階的に導入？

地方版PF交付金により、相談体制および支援リソースリストの整備を進めつつ連携を促進？

今後、居場所を見つけづらい当事者のためにメタバース活用？

強化月間等を活用したPR、「あなたはひとりじゃない」に相談の入口を設け同サイトの周知？

#9999で気持ちの整理と適切な相談先の把握を行い、既存の他専門ダイヤルへの転送？

将来理想形として、
たとえば・・・

- ・電話(#9999)×チャットの2大相談ツールの併用、人間×AIのハイブリッド型相談の導入により、相談対応及び地域支援リソースへのつながりを実施。
- ・年末年始・GW、平日日中、平日夜間・土日祝日、のそれぞれについて、電話とチャット、人間とAIの適切な役割分担に基づく、統一的な相談体制モデルを構築。

24時間365日、相談・支援へつながり続ける社会の実現

テーマ（試行 第2フェーズ）

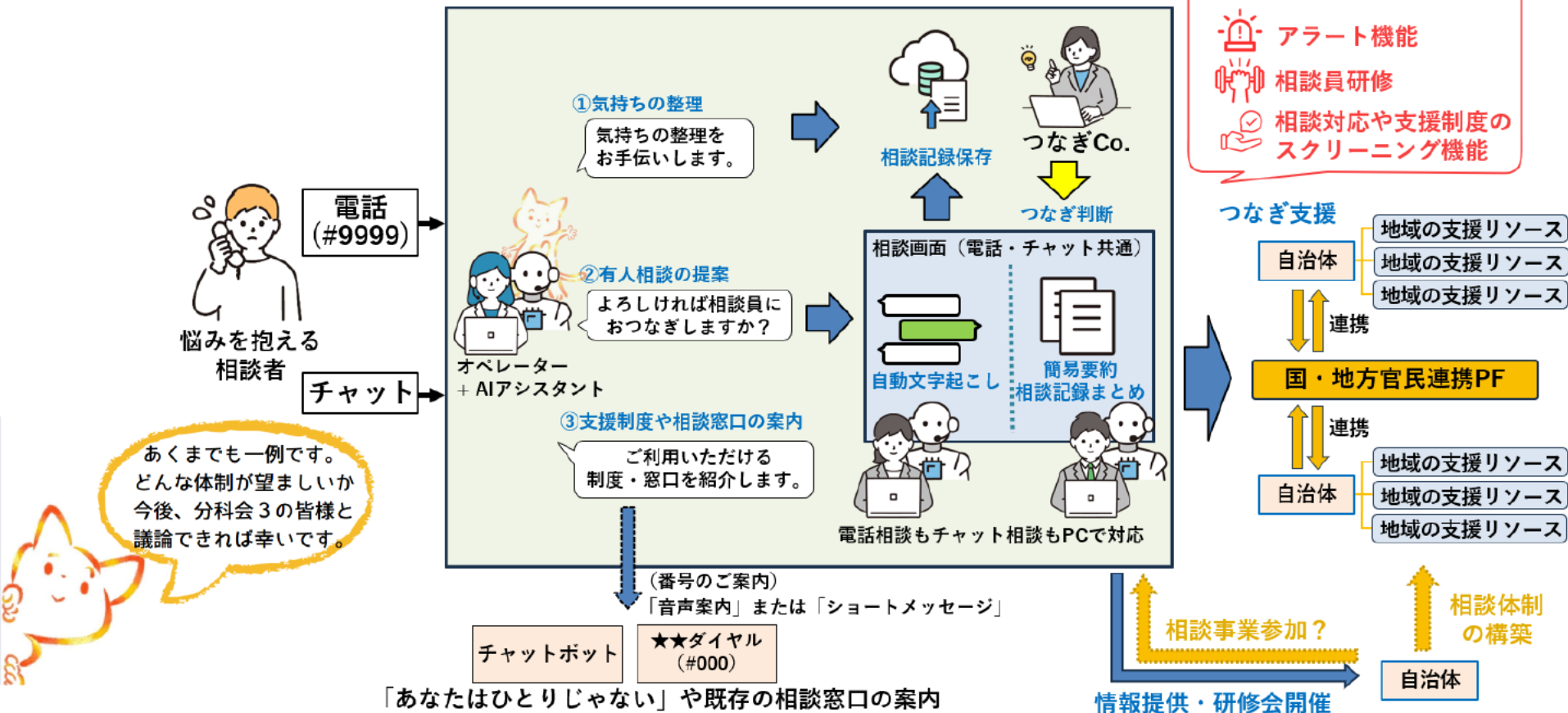
人間 × AI 電話 × チャット で地域の支援までつなぐ

（AIが相談員をサポート）

（自分の状況にあったツールを選べる）

例えば、

＜AI等のIT技術を活用した統一相談システムモデルの一例＞



（今後の展開にあたって留意が必要な点）

★AIの活用方法については、十分な検討・検証が必要

★支援情報のマッチングについては、

「相談の見立て・マッチする支援機関の確認・その支援機関へのつながり方等のコーディネート」まで検討が必要

令和7年度の実施スケジュールのご報告

<ご報告>

令和7年度における孤独・孤立相談については、

「孤独・孤立対策強化月間（GW期間中）」「年末年始期間」における計2回で実施予定です。

①ゴールデンウィーク期間中（5月孤独・孤立対策強化月間中）

- ・開設日時：令和7年5月2日（金）～5月7日（水） ※5日間
- ・実施形態：電話、チャット、メール、メタバース

②年末年始期間中

- ・開設日時：令和7年12月25日（木）～令和8年1月4日（日） ※10日間
- ・実施形態：電話、チャット、メール

2025年(令和7年)5月のゴールデンウィークカレンダー

2025年(令和7年) 5月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29 昭和の日	30 先勝	1 友引	2 先負	3 先勝
4 先勝	5 大安	6 先勝	7 友引	8 先負	9 先勝	10 先勝
11 大安	12 先勝	13 先勝	14 先勝	15 先勝	16 先勝	17 先勝

※赤枠は休日

相談実施期間：5月2日（金）～5月7日（水）

2025年(令和7年)12月の年末年始休み(正月休み)カレンダー

2025年(令和7年) 12月

日	月	火	水	木	金	土
21 先勝	22 友引	23 先負	24 先勝	25 大安	26 先勝	27 先勝
28 先勝	29 先勝	30 先勝	31 先勝	1 先勝	2 先勝	3 先勝
4 先勝	5 先勝	6 先勝	7 先勝	8 先勝	9 先勝	10 先勝

※赤枠は休日

相談実施期間：12月25日（木）～令和8年1月4日（日）

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 令和6年度第2回シンポジウムの開催

(令和7年1月24日、Web会議形式での開催。事前申込人数600名、当日視聴回数428回)

- ・官民連携プラットフォームでは、孤独・孤立対策に関する全国的な普及活動を行うためシンポジウムを開催。
- ・令和6年度第2回は、「男性/女性らしさ」のような「らしさ」による孤独・孤立対策のテーマに焦点をあて、専門家による解説や、先行事例の報告とパネルディスカッションを通じて、孤独・孤立への影響と対応策等を共有することを目的として開催。

解説者 放送大学/千葉大学名誉教授 宮本 みち子氏
概要 若者の孤独・孤立をテーマにその現状と若者政策の狭間の課題を指摘。特に、ミドル期シングルについて親密圏の形成及び「中間圏」の拡充、そして共助・共生社会への重要性を説明。

【第1部】「「らしさ」と孤独・孤立」に係る解説②

解説者 広島大学准教授 北仲 千里氏
概要 DVや児童虐待による孤独・孤立をテーマに、被害者の避難に対する周囲の気づきと支援の重要性及び、近年のデジタル技術を使った監視・支配、脱出の障壁となる女性の貧困について説明。

【第1部】「「らしさ」と孤独・孤立」に係る解説③

解説者 京都大学・大阪大学名誉教授 伊藤公雄氏
概要 男性性による孤独・孤立をテーマに、その現状の説明および、原因である男性性による「男らしさ」によるしがらみについて指摘。男性危機センター等男性性に視点を持った政策/対応の必要性を説明。

【第二部 前半】 「らしさ」と生きづらさに係る先行事例の報告

①自治体実践分野

報告者 埼玉県知事 大野元裕氏
概要 埼玉県において推進しているジェンダー主流化について、その意義や取組内容、孤独・孤立対策の視点からみる重要性について説明。また、首長自ら旗振り役となる事の重要性も指摘。

【第二部 前半】 「らしさ」と生きづらさに係る先行事例の報告

②居場所づくり分野

報告者 NPO 法人場作りネット 副理事長 元島 生氏
概要 自身の運営する駆け込み宿「やどかりハウス」での活動を基に若者の抱える問題を説明。また、孤独・孤立解消のため、助かり合うコミュニティを創るという関係性モデルの重要性を強調。

- ・官民連携プラットフォームでは、孤独・孤立対策に関する全国的な普及活動を行うためシンポジウムを開催。
- ・令和6年度第2回は、「男性/女性らしさ」のような「らしさ」による孤独・孤立対策のテーマに焦点をあて、専門家による解説や、先行事例の報告とパネルディスカッションを通じて、孤独・孤立への影響と対応策等を共有することを目的として開催。

【第2部 前半】

「らしさ」と生きづらさに係る先行事例の報告

③こども支援分野

報告者 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
アドボカシーグループリーダー 長島 美紀氏

概要 女性の生きづらさや低いリーダー志向の背景にジェンダーステレオタイプがあると指摘。その解決策としてジェンダーに関する意見交換により気づきを促す参加型ワークショップの実施などを報告。

【第2部 前半】

「らしさ」と生きづらさに係る先行事例の報告

④セクシュアル・マイノリティ分野

報告者 一般社団法人 SOGIE 相談・社会福祉全国協議会
専務理事 安間 優希氏

概要 セクシュアル・マイノリティの方々が抱える孤独・孤立の背景には、自己受容の困難、人間関係における偏見や排除、社会制度からの疎外の3点を挙げ、その実状を相談事例から説明。

【第2部 後半】 パネルディスカッション「自分らしく」生きられる地域の作り方について意見交換

モデレーター

- ・内閣府 孤独・孤立対策推進室 大西 連 参与

パネリスト

- ・NPO 法人場作りネット 副理事長 元島 生氏
- ・公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
アドボカシーグループリーダー 長島 美紀氏
- ・一般社団法人 SOGIE 相談・社会福祉全国協議会 専務理事 安間優希氏

コメンテーター

- ・放送大学/千葉大学名誉教授 宮本 みち子氏
- ・広島大学准教授 北仲 千里氏
- ・京都大学・大阪大学名誉教授 伊藤公雄氏
- ・一般社団法人 社会的包摂サポートセンター事務局長
遠藤 智子氏
- ・一般社団法人全国フードバンク推進協議会代表理事
米山 廣明氏

- 地域活動のあり方について議論。行政や市民の「支援が人を引き寄せる。例えば、公園にベンチを設置すればホームレスの居場所になる」といった偏見が障壁であり、支援対象者と地域住民が出会う機会を増やし理解を促進することが重要。また、シングル世帯の増加により地域の関係が希薄化しているため、行政がもっと関与し、支援につなげる必要があると指摘。セクシュアル・マイノリティの方々への地域支援については、大都市以外にも支援を広げるために、基礎自治体レベルでの施策やインターネット上のコミュニティの活用が重要。
- 今後の展望について議論。地域社会の変革について、「強すぎない絆」をつくり、ゆるやかにつながる仕組みを整える事が重要。また、官民連携推進のためには、行政の資源と民間の知見をつなぐ「調整役」の設定や、企業の社会貢献活動の活用も有用。また、支援活動を続けることで新たなニーズが見えてくるため実践を重視し、すべての人が「仲間」として支え合う意識を持つことが大切。

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 令和 6 年度第 2 回シンポジウム 開催後アンケート

報告日：2025 年 2 月 26 日

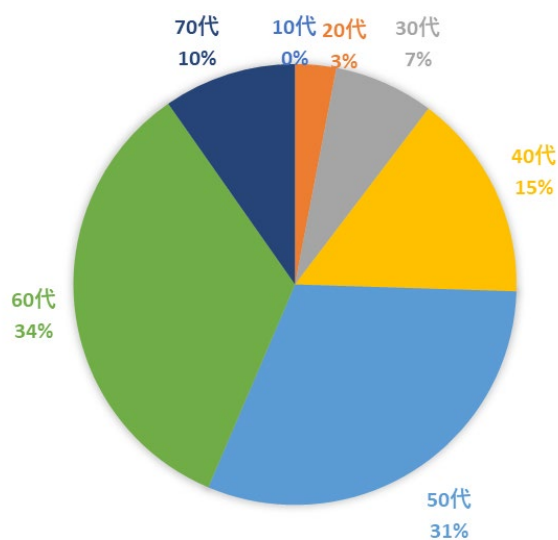
回答期間：2025 年 1 月 24 日～1 月 30 日

回答者数：165 名

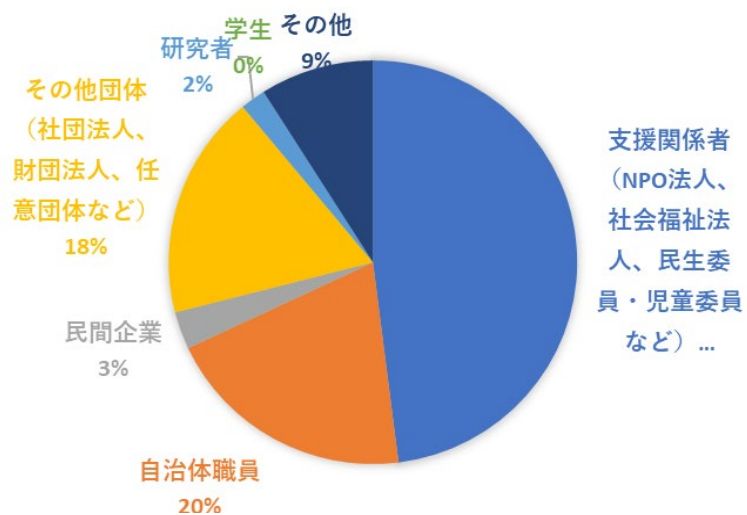
回答率：39%（対当日の視聴回数 428）、28%（対事前申込者数 600）

【回答者属性】

1. 年代（n=165）

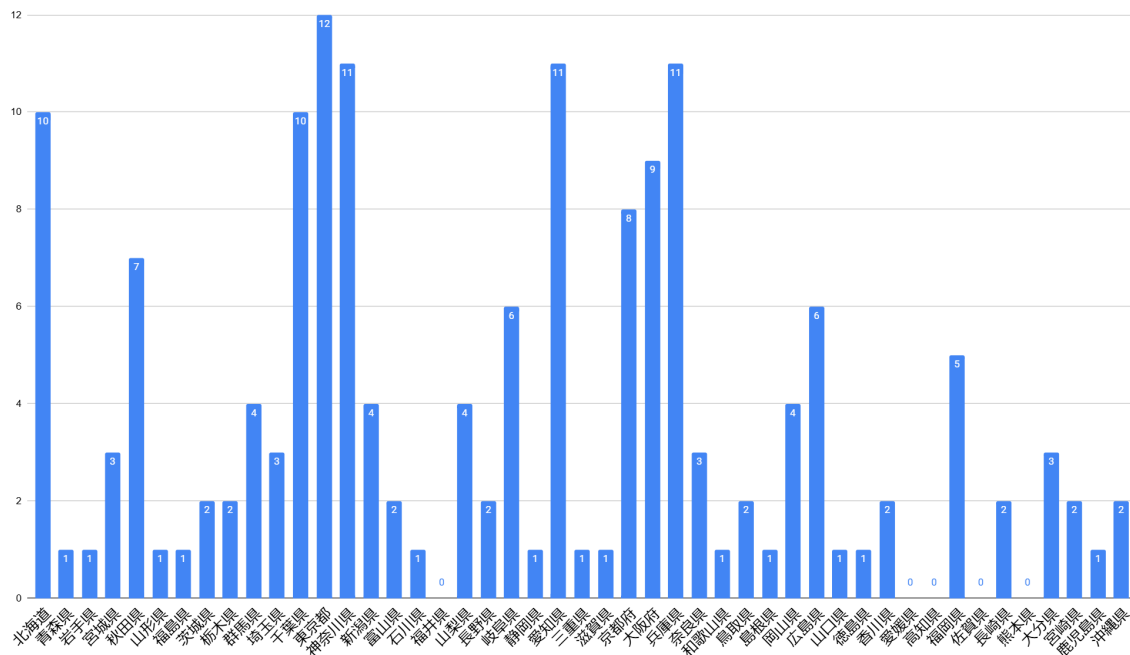


2. 回答者の属性（n=165）

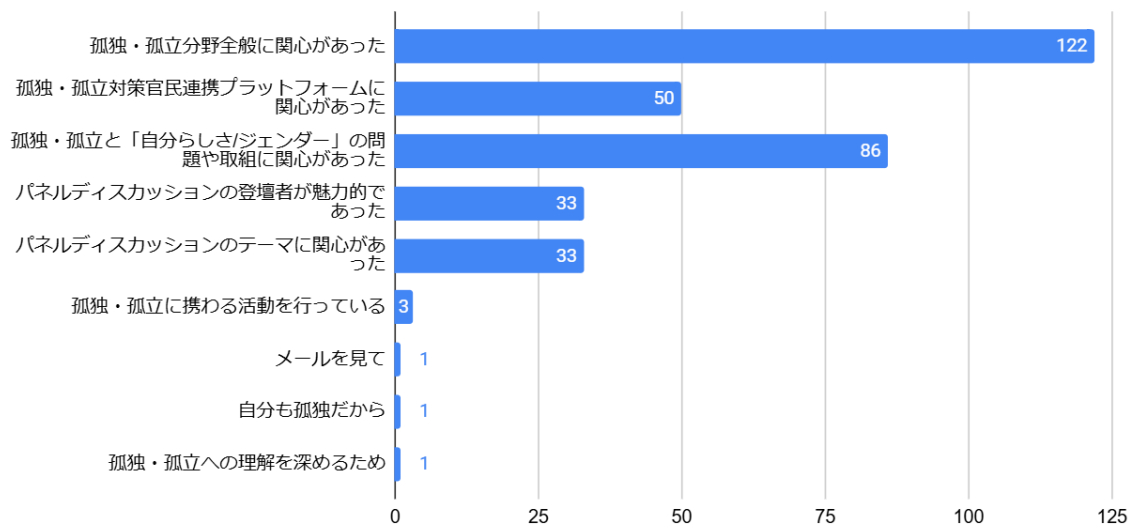


その他回答は、「議員」「医療法人」「芸術家」等。

3. 居住地 (n=165)



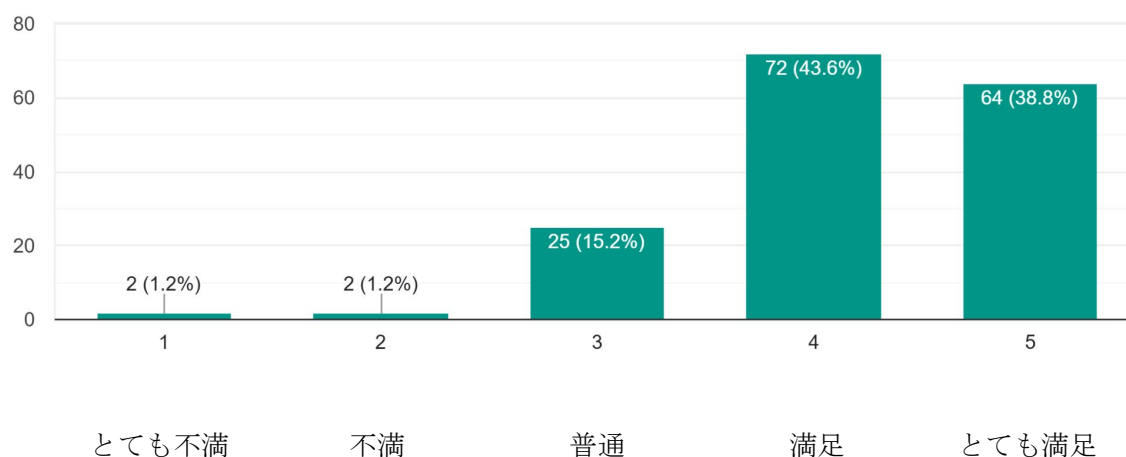
4. 当シンポジウムに参加された理由（複数選択可） (n=330)



1. シンポジウム全体および各プログラムの満足度について

シンポジウム全体への満足度は、80%以上の方が「とても満足」「満足」と回答され、参加者にとって満足度の高いイベントであったといえる。自由記述では、「専門家や実践者からの多様な意見を聞くことで、新たな視点を得ることができた。」との意見や「各セッションごとのテーマ分けが明確で、時間を感じさせない構成だった。」等の意見が見られた。15%の方が「普通」と回答している。「満足」と回答しなかった理由として「講義や事例紹介をもう少し詳しく聞きたかった。」といった開催時間に対する意見も見られる。

1-1.シンポジウム全体への満足度（n=165）

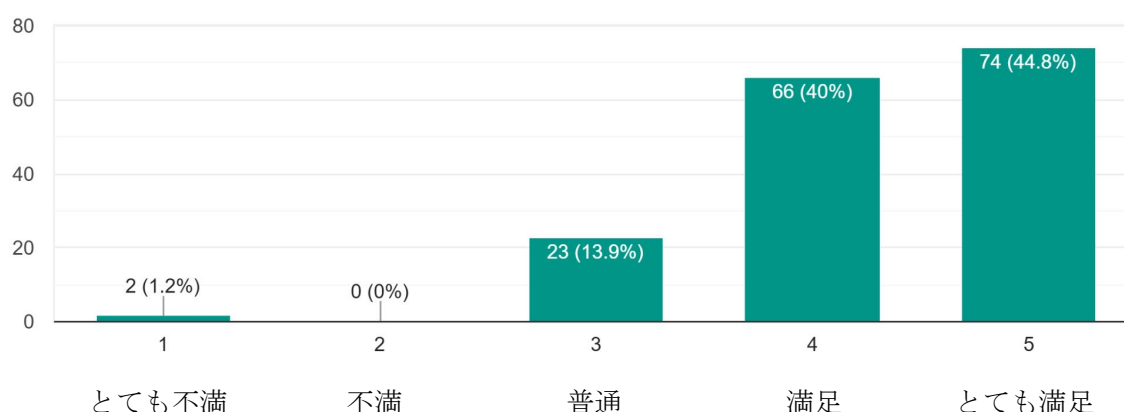


<回答理由 ※抜粋>

- ・さまざまな立場の方々から、現場実践を背景とした見解、意見を聞いた。
- ・一口に孤独・孤立と括れない、様々な状況・要因など、分かりやすくお話を聴くことができました。
- ・様々な視点からの孤立・孤独を学ぶことができたから
- ・テーマごとのセッションに分かれての講演と全体のディスカッションに分かれていたので時間を感じなかった
- ・今後の活動に参考にしていく内容であった。
- ・今何が課題なのかということがわかったが、時間がもう少しあるとよいと思った。
- ・行政が求められる役割を改めて認識することができたから
- ・多分野で行なっている活動が、一人ひとりのジェンダー意識に影響を及ぼしていることが、実例などを通して良く理解できました。
- ・現場経験などが豊富な多様な登壇者の方々のお話しが興味深く、また、後半のディスカッションも聞き応えがあったため
- ・資料も説明も分かりやすかったです。
- ・専門的に研究、実践されている方々ばかりでしたから、今後実践していくにあたり大変理解が深まった思いです。
- ・日々、感じることやこうなったら良いなと思うことについて登壇者の方々が語られていた。自分の感覚は自分だけじゃないと分かり心強かった。
- ・孤独・孤立の問題と聞けば、すぐに高齢分野を思い浮かべる自分の考え方が相当古くなっていることがよくわかりました。
- ・孤独・孤立対策の包摂性が確認できたこと
- ・男性性の孤独・孤立にも焦点を当てていて、それが女性や子どもの孤独孤立にもつながるという視点が納得感があった。また多面的な切り口でためになった。
- ・孤独・孤立はどんな人でもなり得る問題であり、紐づいてくるのだと知りました。
- ・各方面からの問題点や支援の取り組みを知ることができ、アプローチ方法も多様だとわかった。
- ・登壇者の話に賛同する点が大変多く、進行もスムーズで全体として分かりやすかった。

- ・住んでいる所が田舎なので余り気にならなかったジェンダーのことが、少しは分かったような気がした。
- ・第1部の話から実践の科学的根拠が知れ、実践の意義がより深く理解できたから。
- ・多面的な切り口での話によって、更に認識が広がった
- ・地域での孤立防止の話が聞きたかった
- ・いろいろな視点から情報を得ることができた
- ・自身の課においても昨年度より扱い始めた課題であり、いまだ不勉強なところがあるため、このような全国規模での情報を頂ける機会は、大変ありがたいです。
- ・様々なお立場、活動をしている登壇者のお話が聞けて良かったのと、モデレーター大西参与の的確な質問、まとめ、話の振りなどが素晴らしかった。
- ・話の内容はおもしろかったが、できれば第二部前半の事例紹介をもう少しゆっくり聞きたかった
- ・孤独・孤立につながるさまざまな分野の研究や実践事例を聞くことができた
- ・各分野での課題やその対策に説得力があった
- ・全部のものととも編集したものも動画で見ることが出来ればと思います。
- ・やどかりの取り組みに感銘を受けた
- ・孤独孤立の現状や対策例を、「らしさ」ジェンダー視点で学べ、とても有意義でした。
- ・普段あまり意識していない男性性や女性の若年層、ジェンダーといった事で「らしさ」の固定観念が自身にもあったのを気づけたこと。
- ・孤独・孤立課題への多角的なアプローチが感じられた。

1-2. 【第1部「らしさ」と孤独・孤立に係る解説】への満足度



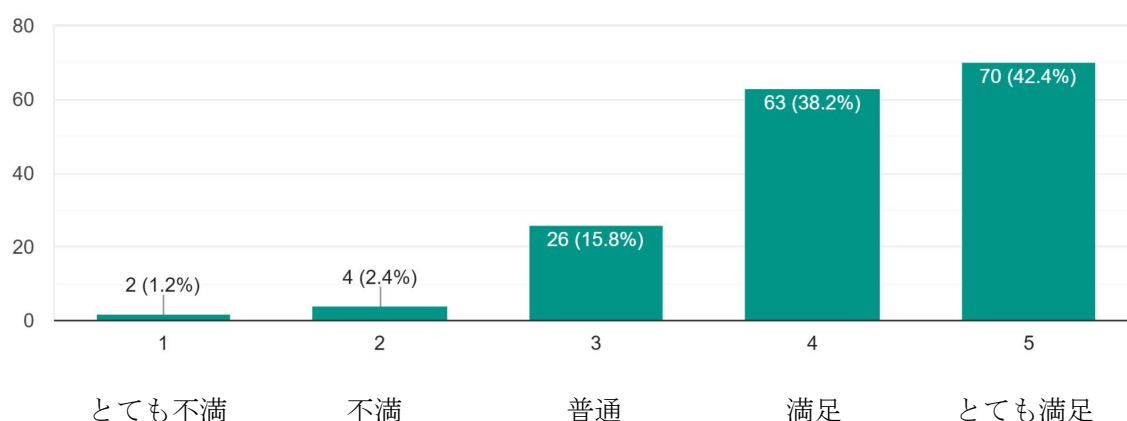
<回答理由 ※抜粋>

- ・総論と具体的な内容が盛り込まれていて、わかりやすかった
- ・普段から多様性を容認しようと意識していましたが、まだまだ自分の中にも、「らしさ」で括っている部分があると気づきました。
- ・それぞれの登壇者の方々が短い時間の中にも関わらず、問題点や課題をコンパクトに示してくださり、わかりやすかったです。
- ・伊藤さんの話しの中で、初めて「男性危機センター」の存在を知り、先駆的な取り組みを聞いたことが良かった。

・様々な問題の根底に、「ジェンダー（らしさ）」や「アンコンシャスバイアス」があることがよく理解できた。宮本先生のミドル期シングルの問題や、伊藤先生の「剥奪感情」の定義はとても興味深く、これから深刻化する根深い問題だと思った。

- ・登壇者の皆様の話が大変わかりやすく各自の持ち時間も適切だと感じた。
- ・孤独孤立の社会的・家庭内のメカニズム、ジェンダーがはらむ問題が簡潔に分かった。
- ・もう少し詳しく話を聞きたい方ばかりでした。時間が短くて残念でした。
- ・孤独孤立の現状をアカデミックに知ることが出来た。大変参考になった。
- ・宮本氏の話が、少数派の視点からの説明で、興味深かった。
- ・北仲先生の話をもっと聞きたかったです
- ・若者世代に対しての政策や制度の脆弱性を理解した。

1-3. 【第2部前半「らしさ」と生きづらさに係る先行事例の報告】への満足度

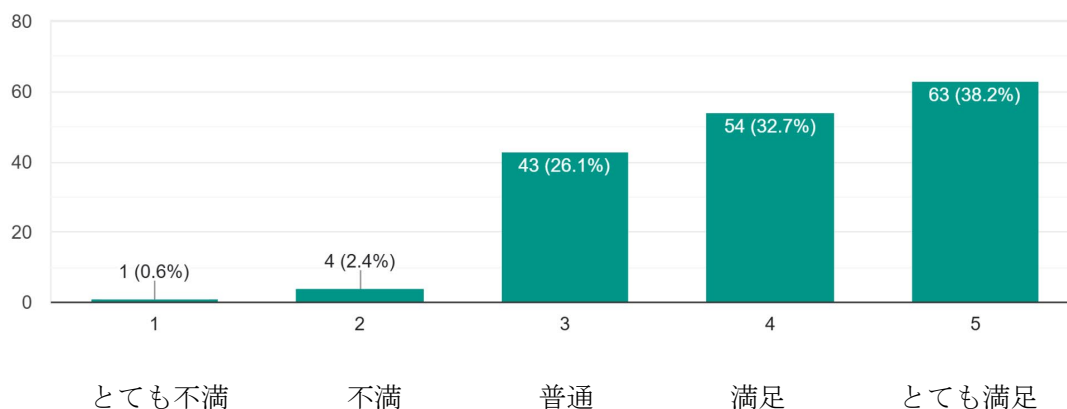


<回答理由 ※抜粋>

- ・非常に良かったです。地域、立場など、それぞれの実践について、課題や可能性含めて理解しました。また、力をいただきました。
- ・元島さんの活動は対象者が幅広く緩やかに専門機関につながる先駆的な活動、参考にした。大野知事のジェンダー主流化を全庁で取り組む意気込み、全ての県で見習ってほしい。
- ・いつもながら大西参与の捌き方が大変適当で素晴らしく、あっという間に終了時間を迎えた思いでした。それぞれの団体の活動、そして大野知事からの埼玉県的事案、今日は参加した甲斐があったと思っています。
- ・自分の居住地にも広がってほしい内容ばかりだった。
- ・孤独感と差別まで、関係してくるのは、あまり考えたことがなかったので新鮮でした。
- ・それぞれのお話しの時間が少し少なく感じた。
- ・500円で誰でも泊まれる場所があるという事に衝撃を受けました。ただ誰でもというのは良い事もあるが、一方で危険な事もあるのではないかと思います。その辺りの対策はどうされているのか知りたかったです。
- ・現場で奮闘されている方々実感のある報告の中にいくつも学びがありました。
- ・埼玉県の事例に感銘をうけた。元島氏の実践に日頃の活動の在り方を考えるうえで大変ためになる示唆をいただいた。助けられあい、目からうろこでした。
- ・自分自身や周囲の意識していないジェンダーの偏見に気づくきっかけになった
- ・首長の発言は目新しいうえに、現場の対応と乖離している様子が興味深かった

- ・埼玉県知事の事例報告が具体的で分かりやすかった。又、冒頭のWEB 広告動画は良く出来ていて感銘を受けた。
- ・複数の先行事例が支援を受けている方目線で語られていて、現状の深刻さがより伝わった

1-4. 【第2部後半「自分らしく」生きられる地域の作り方に係るパネルディスカッション】



<回答理由 ※抜粋>

- ・大きなテーマとなり、限られた時間でしたが、実際の活動のヒントをたくさんいただきました。
- ・地域での活動の進め方があまり入ってこなかった感じです。
- ・どこにも無駄のないお話ばかりでした。「ゆるいつながり」「参加・役割」「コーディネータ」「多様なニーズに沿ったオーダーメイド支援」がキーワードなのかなと思った。
- ・「らしさ」は結果であって、他人にも自分にも求めたり、当てはめたりしてはいけないものだとの認識を得た。
- ・ひとつのテーマについて、いろんな人の意見が聞けるのが良かった
- ・孤独孤立をテーマにつながれる仲間意識を持つことができました。
- ・全体的にとっても良いディスカッションであったと感じました。様々な立場でのお話を聞くことができ現場の様子も知ることができ参考になりました。
- ・参加者が多すぎて議論が薄まった印象なので。
- ・自治体職員です。現場の声をもっとひろって、民間との連携をしていけるとよいなと改めて感じました。
- ・なぜ社会は「排除」する事を厭わないのか、「排除」する側の意見も聞きたかった
- ・孤独孤立の問題は様々な要因が重なり合っており、地域づくりの視点でのご意見は貴重ただ、早口な部分がありじっくりと聞けなかったのは残念
- ・行政、民間、企業、地域の人々のつながりと連携により相乗効果が生まれるよう取り組んでいきたいと感じました。
- ・モデレーター力が発揮され討論が有機的に展開した印象だが、もう少し時間をかけられればより満足したと思う。

2. 今後開催するシンポジウムで、取り上げてほしいテーマ

<取り上げてほしい対象について>

- 10～20代の居場所づくり

- 自殺対策やひきこもりをテーマにした孤独孤立対策
- 孤独高齢者の終活
- 日本の性教育について
- 農山村に潜む孤独・孤立対策
- 自己肯定感や自尊心の低さと生きづらさ
- 宗教による孤独孤立
- 孤独・孤立が故に発生している二次的な問題について（医薬品のオーバードーズ等）
- 不登校家庭の親。暴力のある家庭。
- 介護や子育てなど、役割を担うために社会から孤立してしまう事に関して
- 常時接続の時代の孤独、孤立
- 男の子の孤独（学校で女子にいじられる等で居場所を失いがち。その影響が長引く場合もある）
- 動物（愛玩動物・野生動物）を取り巻く問題の根底にある「孤独・孤立」
- 生活困窮と孤独・孤立
- ひきこもり状態にある方の支援について
- 教員への教育制度の現状と今後の在り方に関する事
- 世間一般にあまり認識されていない孤独・孤立問題
- 一人暮らしの中高年への孤独孤立の深刻化について
- 介護や子育てなど、役割を担うために社会から孤立してしまう事に関して
- 排除された人が行き着く先について（ジェンダー的に一番顕著なのは、受刑者全体の90%が男性、風俗で働く人の95%が女性）
- 子どもの孤独孤立
- ヒューニング学
- 企業や社会の役割
- らしさ・生きづらさとメンタル・トラウマ・依存症などの関連について

< 講演・パネルディスカッションの内容について >

- 孤独・孤立対策として、それぞれの地域で具体的に何から手を付けることが可能なのか、多くの自治体で「官」が「民」に門戸を閉じがちな中で、それをどのように開いていくか
- 孤独孤立の当事者への支援方法や相談での対応方法
- 同じテーマでもパネラーが変わると、ディスカッションがどう変わるか興味がある。
- 若者世代への支援の取り組みについて、スウェーデンなどでの若者支援を参考に
- 気軽に参加できる、つながりの場づくりのためにどう連携すれば良いのか
- 居場所、コミュニティ、自治体の支援例
- 孤立・孤独対策で研究されている実態報告
- 当事者の声（支援者、支援団体への関係・不満）
- 集団活動に参加させる樽の手立てについて
- 若年層や社会的処方・文化的処方のテーマで話を聞きたい。
- 実際に独居の方の見守り活動の紹介の場を設けていただきたい。

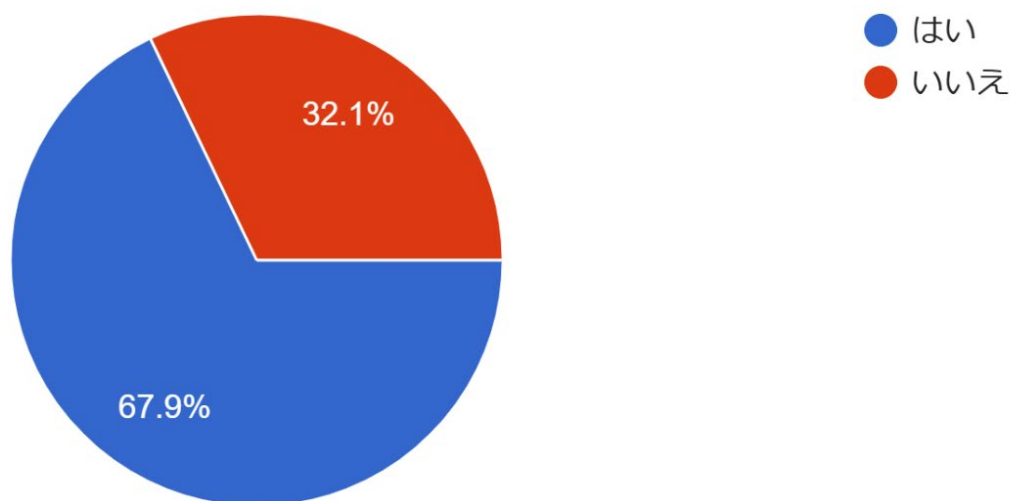
< 具体的なテーマについて >

- 孤独孤立対策の地方の取組紹介（地方自治体の役割と課題/地方自治体の動きと温度/各地のプラットフォームの紹介）

- 女性性・男性性の分離について、さらに時代背景を含め、内容を深めたい。
- 埼玉県知事がおっしゃっていたようなジェンダー主流化の取り組みのために実際にまだどんな課題があるのかの洗い出し（例、男性は出勤時に託児、女性が時短でお迎えなど）それをシンポジウムでまとめて各自機関で発信していく
- 行政主導で連携支援が進んでいる具体的な事例
- 意識改革方法
- 自治体で行っている重層的支援体制整備事業との連携
- 事業の効果検証
- ホワイトな会社の見極め方（入社しないと会社の人間関係や人に対する対応が分からないため）
- 官民・民民連携の事業継続をどう支えるか。

3. 「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」の認知度

アンケート回答者のうち、約70%が孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを知っていたと回答した。



4. その他、ご意見・ご感想など ※抜粋

- ・立ち上げたばかりのNPOですが、お話を聞いていて、課題と感ずるところが同じだと感じたので、地道に活動を続けていこうと思えました。
- ・まだ、基礎自治体として、孤独孤立対策で何をしたらいいのかイメージできていない部分があるため、効果的な取組をご教示いただければ幸いです。
- ・お世話様になりました。大野知事の参加は、とても良かったです。上に立つ方の旗振りは大事です。
- ・若年の困難な状況に、不登校問題が多くなっています。それに付随して不登校の親たちも困っています。不登校の相談では義務教育と高校でも対応が違いますが、情報が足りない状況が

起きています。高校の不登校は、とくに情報が足りていません。不登校を支える団体も横のつながりが、まだ手薄になっているような気がします。

- ・また、コロナ禍明けに緊急小口を借りていた人たちが、返済に困っている状況が出ています。若年の借金問題も取り上げてもらいたいです。

- ・身寄りのない孤独な高齢者からの相談が増加している肌感覚があります。身寄りのない高齢者が、終活をしてもしきれない、信頼できる場所がないなどの問題を抱えています。今後社会課題としてどう向き合っていくかについて検討するような機会があると良いと思います。

- ・国がちゃんと予算をつけて地方に補助ができるようにしてほしい。（官民共に）

- ・とにかく多くの方々が同じ知識を得る機会を増やせたらと思います。

- ・ここで語られた課題を、すぐに出来ること、時間をかけて検討し政策実現すべきこと、現状では難しいと考えられることなどに整理し、政策に移していくプロセスもプラットフォームとして公開し、参加者に共有できれば、素晴らしいと思います。

- ・都内の区役所に何ヶ所かヒアリングしましたが、孤独孤立対策推進法が施行されましたが、具体的な施策に苦慮し何をして良いのか模索の段階を超えていません。担当部署も決まっていないというところもあります。このようなシンポジウム国の方向性と熱が、まだ自治体レベルには伝わっていない。自治体職員にこそこれを見せて理解を深めさせないとダメだと痛感。

「人とつながる」ことが重要だと言っても声を上げられる方への受け皿作りばかりで、地域の方を巻き込んだ施策を実践できていない。それに対する取り組みをしている NPO 法人ですが、自治体職員に温度や有効性が伝わらないことに歯痒さを抱いています。

- ・大きな事件や問題にも繋がりうる重要課題であることを踏まえて、周囲の職員からまず周知をしていこうと思います。

- ・行政内での他部局連携も進まない中、働きかけは続けたい。

- ・「自分らしさ／ジェンダー」の問題への取組が孤独・孤立対策のうえで重要であることを確認し、深堀することができました。いずれのセッションもたいへん示唆に富む内容で、大いに参考になりました。

- ・支援団体としては、孤立している方、本当に支援を必要としている方へのアプローチに敷居が高いと感じています。個人情報保護法とのトレードオフになってしまうと思いますが、行政側がもう少し支援を必要としている人の情報を（把握しているのであれば）提供できるような仕組みがあれば良いと感じています。

3時間通しはなかなか空けられないので、発表とディスカッションをワンセットとして、2セッション実施いただけると、3時間すべてに出席できなくても実のある意見交換が可能です。

先々ご検討よろしくをお願いします。

以上

令和6年度通常総会関連イベントについて

1. イベント内容

※別紙開催概要のとおり

2. 参加状況

事前申込者数：237（うち、会員：99、一般参加団体：138）

3. 事後アンケート（速報）N=62

○参加者の属性

- ・支援関係者（NPO 法人、社会福祉法人、民生委員・児童委員など）：23（37.1%）
- ・民間企業：0（0.0%）
- ・自治体職員：34（54.8%）
- ・その他団体（社団法人、財団法人、任意団体など）：5（8.1%）
- ・研究者：0（0.0%）
- ・学生：0（0.0%）

○会員状況

- ・会員：19（30.6%）
- ・非会員：43（69.4%）

○「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を知っていましたか。

- ・はい：50（80.6%）
- ・いいえ：12（19.4%）

○今後開催するイベントで、どのようなテーマを取り上げてほしいですか。

- ・今回の様な掘り下げた本音の話
- ・テーマ別のイベントではなく、孤独・孤立対策全体にかかるものを取り上げてほしい。
- ・家族いない社会的孤立状態にある方の家族機能面に対する支援について
- ・妊娠、出産、育児～孤独と孤立を防ぎ地域で見守り、助ける仕組みづくり
- ・法人格をもたない住民による孤独・孤立対策に資する先進的な取組があるご紹介いただきたいです。
- ・支援団体とのマッチングについて
- ・若者でも様々な悩みで孤独孤立に陥ると思われれます。ヤングケアラー、LGBTQ など。テーマをもう少し細分化しても面白いと感じました。
- ・是非、孤独・孤立対策に着手されている方々の実践報告を多く伺いたいです。
- ・子供から高齢者、障害者など、世代や属性を問わない取組、居場所づくりの事例

- ・ 孤独・孤立対策とその他の制度施策(生活困窮など)との違い、独自性とは
- ・ こどもへの支援
- ・ 孤独・孤立対策としての参加支援
- ・ 自治体において、孤独・孤立対策を主として管轄している部局を知りたい
- ・ オンラインイベントが多いのですが、現場訪問やスタディツアーなどの取り組みもあるといいなと思います。
- ・ 孤独・孤立防止対策
- ・ 民間企業の CSR 等による支援
- ・ 若者支援をまたお願いしたい。
- ・ 生活困窮者支援に関するテーマを希望します。
- ・ 外国人支援

○その他、ご意見・ご感想など

- ・ ありがとうございます。
- ・ 基礎自治体における孤独・孤立対策をどのように進めていくべきか、国として示してほしい。
- ・ 触れる機会の少ない分野かつ多種多様な実践報告を聴くことができ、とても良い学びとなりました。今後の開催イベントでも、普段はなかなか取り上げられる機会が少ない分野の実践報告を聴くことができると、日頃の支援にも役立つかもしれないと感じます。
- ・ 補助金と委託の違いがよくわかりました。官は民が活動しやすいように補助金をどんどん出して欲しいと思います。
- ・ 色々な意見を伺いたいので、地方でも対面式で出来るとありがたいです。
- ・ お忙しいところ開催していただきありがとうございます。また登壇された方におかれましても、ご講演いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
- ・ 資料が当日の講義時間中もホームページ上にアップされていませんでした。もう少し早い対応をしていただければと感じました。
- ・ YouTube による配信はアクセスしやすかったので、今後も YouTube での配信としていただきたいです（Zoom だと機器の配備等が必要であり、手間がかかります）。
- ・ 学びの多いイベントでした。
- ・ YouTube 配信で誰でも視聴できるのは良いことだと思いました。今後も続けてほしいと思います。
- ・ とてもいい研修で満足しています。ありがとうございます。
- ・ 中高年による通魔的事件事案に対し、特に男性中高年への孤独・孤立対策が全体的に少ないのではと感じます。1 人暮らしの中高年が増える中、課題解決に取り組む事業があれば共有して頂きたいです。
- ・ 急な予定で全部を視聴できなかったが、奥村氏の話から、若者支援の現在地を多少

なりとも知ることができた。制度のはざまにある若者支援に関してもう少し聴きたいと思った。

令和 6 年度 総会関連イベント

「孤独・孤立対策における若者支援」

開催概要

■開催目的

令和 6 年 4 月 1 日に孤独・孤立対策推進法が施行され、関係府省庁、地方公共団体及び NPO 等が有機的に連携して幅広く具体的な取組を総合的に実施し、社会のあらゆる分野に孤独・孤立対策の視点を入れることを徹底していくことがより一層求められています。

一方で、孤独・孤立対策の取組の幅広さ・多様性を踏まえ、関係者間の協力体制を構築するに当たり、対策のイメージの具体化・共有が重要であるとの声も挙がっています¹。

今回は令和 5 年 4 月にこども家庭庁の設立、同年 12 月の「こども大綱」の閣議決定、さらには令和 6 年 4 月の「改正児童福祉法」の施行等、こども・若者当事者や支援関係者を取り巻く環境が変化していることを踏まえて「若者支援」に焦点をあて、第一部では専門家による若者政策の現状と課題についての解説をいただき、第二部では NPO 等の現場の実践者による取組報告とパネルディスカッションを通じて、地方公共団体や NPO 等が連携して取組を検討する際の参考となることを目指します。

■開催日程

令和 7 年 3 月 7 日(金)15:30~17:30

■開催方法

YouTube 等によるオンライン配信

■対象者

地方公共団体/社会福祉協議会/NPO 法人等

※PF の会員ではない方も参加可能

■参加費

無料(事前申込制)

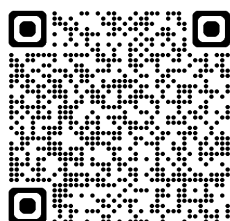
■参加方法

オンラインフォームまたは QR コードより 3 月 3 日(月)正午までに申込みください。

※同団体から複数名が参加される場合も 1 名ずつ申請ください。

※開催前日までに視聴用 URL 等をメールにてお送りさせていただきます。

<https://forms.gle/BxSPzARULKPrPfiT6>



¹ 内閣府「孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画(令和 6 年 6 月 11 日)P.3」より引用

■プログラム(合計 120 分)

時間	プログラム	登壇者候補
15:30～	開会挨拶	内閣府 孤独・孤立対策推進室
15:35～	第一部:概論	【解説者】野澤 和弘氏(植草学園大学 副学長)
15:50～	第二部:パネルディスカッション 【前半】実践報告 ①児童養護支援関係 ②若者女性支援関係 ③若者支援関係	【進行】大西参与 【登壇者】 ①小田川 華子氏(公益社団法人ユニバーサル志縁センター 事務局長) ②中島 かおり氏(認定 NPO 法人ピッコラーレ 代表理事) ③今井 紀明氏(認定 NPO 法人 D×P 理事長)、 奥村 春香氏(特定非営利活動法人第 3 の家族 理事長)
16:50～	【後半】パネルディスカッション	【モデレーター】大西参与 【パネリスト】 ・小田川 華子氏(公益社団法人ユニバーサル志縁センター 事務局長) ・中島 かおり氏(認定 NPO 法人ピッコラーレ 代表理事) ・今井 紀明氏(認定 NPO 法人 D×P 理事長)、 ・奥村 春香氏(特定非営利活動法人第 3 の家族 理事長)
17:20～	質疑応答	【コメンテーター】 ・野澤 和弘氏 ・米山 廣明氏(一般社団法人全国フードバンク推進協議会 代表理事) ・遠藤 智子氏(一般社団法人社会的包摂サポートセンター 事務局長)
17:30	閉会挨拶	内閣府 孤独・孤立対策推進室

■本シンポジウムに関するお問い合わせ

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム事務局(一般社団法人 RCF 内)

担当:前田、山地、奈良岡

メールアドレス:kodoku.koritsu.jimukyoku@rcf.co.jp

以上

孤独・孤立対策に取り組む NPO等への支援について

(令和7年度予算案・令和6年度補正予算)

内閣府孤独・孤立対策推進室

孤独・孤立対策に取り組むNPO等への支援（令和7年度予算案・令和6年度補正予算）

孤独・孤立の予防と官民連携プラットフォームの構築【内閣府】

- ・孤独・孤立の予防や早期対応に資する日常生活環境での緩やかなつながりや居場所づくりに関するNPO等の先駆的な取組への支援を拡充
 - 地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査 2.0億円 (R6補正)
- ・孤独・孤立対策に取り組むNPO等の運営能力の向上や活動基盤の整備に取り組む中間支援組織への支援を継続するとともに、地方における官・民・NPO等の連携体制の構築や関連事業の取組への支援を拡充
 - 社会参加活躍支援等孤独・孤立対策推進交付金 1.3億円 (R7)

女性に寄り添った相談支援【内閣府】

- ・地方公共団体がNPO法人等の知見を活用して行う、不安や困難を抱える女性に寄り添った相談事業やその一環として行う生理用品の提供等への支援を継続
 - 地域女性活躍推進交付金
 - ✓ 寄り添い支援型プラス、つながりサポート型、男性相談支援型 2.8億円 (R6補正)
1.2億円 (R7)

こどもの居場所づくり【こども家庭庁】

- ・こどもの視点に立った多様な居場所づくりが行われるよう、地方自治体におけるこどもの居場所づくりの支援体制の構築等に必要な「居場所づくりコーディネーター」の配置等の支援を行うとともに、NPO法人等が創意工夫して行う居場所づくりのモデル事業を継続して実施する。
 - こどもの居場所づくり支援体制強化事業 4.3億円 (R6補正)
8.8億円 (R7)
- ・生活に困窮しているなど、多様かつ複合的な困難を抱えるこどもたちに対し、気軽に立ち寄ることができる居場所を提供し、支援を必要としているこどもを早期に発見し、適切な支援につなげる事業を創設
 - 地域こどもの生活支援強化事業 13.5億円 (R7)

生活困窮者等支援・自殺防止対策【厚生労働省】

- ・生活困窮者等に対する支援活動を行うNPO法人等の取組への支援を継続
 - 生活困窮者等支援民間団体活動助成事業 5.2億円 (R6補正)
 - ・社会的に孤立し不安を抱えている人に対する電話やSNS等を活用した自殺防止等に係る民間団体の取組を支援
 - 地域自殺対策強化交付金 10.0億円 (R6補正)
- 32.1億円の一部 (R7)

円滑な食品アクセスの確保【農林水産省】

- ・円滑な食品アクセスの確保に向けて、地方公共団体や食品事業者、NPO等の地域の関係者が連携する体制づくりを支援するとともに、地域における食品アクセスの担い手となるNPO等に対し、その立上げや機能強化に向けた支援を実施
 - 食品アクセス確保緊急支援事業 5.0億円 (R6補正)
 - 食品アクセス総合対策事業 1.2億円 (R7)

住まいの支援【国土交通省】

- ・NPO等の居住支援法人等が実施する住宅確保要配慮者に対する入居相談や見守り等の活動への支援を継続
 - 居住支援協議会等活動支援事業 2.2億円 (R6補正)
- 10.8億円 (R7)

○その他の支援

- 在外邦人の孤独・孤立に係るチャット相談体制の強化支援【外務省】 0.06億円 (R7)

孤独・孤立対策関係予算一覧

(令和7年度予算案・令和6年度補正予算)

(抜粋)

内閣府孤独・孤立対策推進室

○令和 7 年度予算案

(単位：百万円)

No.	事業名	令和 7 年度 予算額	担当府省庁	備考
1. 孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする				
1-①孤独・孤立の実態把握				
1	孤独・孤立の実態把握に関する全国調査	46	内閣府	
2	こども政策に関する調査研究事業等	53	こども家庭庁	
3	在留外国人に対する基礎調査の実施に必要な経費	11	法務省	
4	外国人材の受入れ及び共生社会の実現に係る企画立案に資する各種会議等の運営に必要な経費（関係者ヒアリング）	1 の内数	法務省	
5	「社会技術研究開発事業」のうち、「社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築（社会的孤立枠）」（JST 運営費交付金事業）	1,686 の内数	文部科学省	
1-②支援情報が網羅されたポータルサイトの構築、タイムリーな情報発信				
6	孤独・孤立対策ウェブサイト	26	内閣府	
7	ソーシャルメディアとの連携による孤独・孤立対策の情報発信	非予算事業	内閣府	
8	支援情報検索サイトの運用	78 の内数	厚生労働省	
9	自殺対策に係る広報の制作・実施業務	78 の内数	厚生労働省	
10	民間ボランティアである保護司等による刑務所出所者等への支援等	4,850 の内数	法務省	
11	公正な在留管理の推進、共生社会の実現	5,609 の内数	法務省	
1-③声を上げやすい・声をかけやすい環境整備				
12	孤独・孤立対策ウェブサイト	26	内閣府	再掲
13	ソーシャルメディアとの連携による孤独・孤立対策の情報発信	非予算事業	内閣府	再掲
14	支援情報検索サイトの運用	78 の内数	厚生労働省	再掲
15	自殺対策に係る広報の制作・実施業務	78 の内数	厚生労働省	再掲
16	児童生徒の自殺予防	非予算事業	文部科学省	
17	こどもの人権SOSミニレター 女性の人権ホットライン 外国人の人権問題対策	3,536 の内数	法務省	
18	偏見・差別等の解消に向けた人権擁護活動の推進	3,536 の内数	法務省	

19	寄り添い型相談支援事業	41,193 の内数	厚生労働省	
20	保護観察対象者等の特性に応じた指導及び支援の充実強化	152 の内数	法務省	
21	医療観察対象者の社会復帰を促進するための地域処遇等の充実強化	303 の内数	法務省	
22	困窮邦人等対策費	21	外務省	
23	海外邦人精神障害者対策費	7	外務省	
24	個別労働紛争対策の推進	3,104 の内数	厚生労働省	

【月間特設メタバースの名称について】

令和7年度孤独・孤立対策強化月間においても
特設メタバースを設置し、「つながりサポーター養成講座」
「メタバース相談」「各団体の取組紹介」等の実施を予定
※ただし、アバター同士の自由な会話が前提となっているメタバースと
同じようなものとの誤解を招かないよう、たとえば「オンライン空間」と
呼称するなどメッセージングには留意して情報発信を行う

○事前にメールにて投票いただいた結果

(案の1) ぷらっとば〜す (R6年度と同じ) … 8票

(案の2) 新しい名称とする … 3票

(例) ・「ふわりんく」

・「ゆるりんく」

・「ぷらっとリンクル」

・「こころステーション」

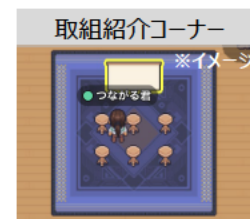
・「ゆるぷら☆タウン」 など

⇒ (案の1) のとおり、昨年度と同じ「ぷらっとば〜す」とすることでよろしいか

(参考) R6月間特設メタバース「ぷらっとば〜す」

開設期間：令和6年5月1日(水)～5月30日(木) 午前10時～午後6時

※5月2日(木)～6日(月)は相談窓口の受付時間に合わせて開設時間を22時まで延長



【引き続き募集】特設メタバースでの取組について

- 5/2（金）～11（日）までの10日間、特設メタバース上を開設し、毎日何らかのイベントを開催
- そのうち、GWを中心とした期間は孤独・孤立相談（電話・チャット・メタバース相談等）を実施予定
※ 5日間程度を想定。詳細については分科会 3において議論
- その他の期間、NPOや企業等、各団体の参画を得て、各団体の取組を紹介する下記のようなイベントを開催
- **幹事団体のみならず、1 団体につき少なくとも 1 企画への参加をお願いします！**
※ 参与の部屋（大西参与との対談）を含む。つながりサポーター養成講座の開催などメタバース外の取組も歓迎

（案）オンライン空間のブースにおける各団体のイベントの例

※各団体のウェブサイト上の企画へのリンクを貼る形での参加も可能

各団体の活動について紹介する
動画やスライド資料等の展示



双方向型の展示

各団体の活動についてクイズ形式などで
インタラクティブに展示



オンラインイベント（講演会）

各団体の孤独・孤立対策の取組や
目指すビジョン等についてZoom等で語る



オンラインイベント（トークセッション）
複数団体がコラボし、Zoom等で
トークセッションを実施



オンラインイベント（体験）

動画配信を見ながら運動、音楽の演奏、
芸術鑑賞など、体験型の企画を実施



リアルイベントの中継
期間中に実施されるリアルイベントを
Youtube Live等で配信



ハイブリットイベントの実施
リアルイベントを中継しながら、
オンライン会場の参加者と交流



協力ゲーム応援イベント

複数人が協力して実施するゲームの
中継を見ながら、ボタンを押すなどして応援
※ゲームは日ごろの活動の中で実施しているもの等



1. 参与の部屋

大西参与とゲストによるトークセッションを行う様子を配信
(リアル対談・オンライン対談のリアルタイム配信や、事前収録の配信など)

【実施予定で調整中の団体（変更の可能性あり）】

- 社会福祉法人全国社会福祉協議会 村木厚子会長
 - 認定NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ 湯浅誠理事長
 - 一般社団法人プラスケア 西智弘代表理事
 - ウエルシアホールディングス 池野隆光会長
 - 一般財団法人100万人のクラシックライブ 蓑田秀策代表理事
 - 特定非営利活動法人あなたのいばしょ
- ※その他にも幹事団体等との実施を調整中

みんなで協力して
良い月間にしよう！



2. 各団体のオンラインイベント

【実施予定で調整中の団体、企画案】

- 一般社団法人ArtsAlive：オンラインアートリブ
 - 一般財団法人100万人のクラシックライブ
 - ・①オンラインコンサートの中継配信、②蓑田代表理事と自治体首長との対談配信 など
 - ウエルシア薬局株式会社
 - ・イベント（①こども薬剤師体験会、②メイク&スキンケア講座、③ヘルスケアお役立ち情報講座）などの中継配信。
 - ・ウエルカフェ、移動販売車などの既存動画の展示 など
 - 公益財団法人ロートこどもみらい財団
 - ・財団代表、講師、ロートこども会員、大西参与等の参加による対談会の配信
 - NPO法人バーチャルフォトウォーク：バーチャルフォトウォーク
 - 公益社団法人日本社会福祉士会：eラーニング講義の配信
- ※PF幹事団体、会員などからも募りながらその他の内容なども検討、調整



3. その他、各取組の紹介動画や窓口のリンクなどの既存媒体の紹介、展示など

令和7年度関連スケジュールについて

○令和6年度は、幹事会は幹事団体の意向を踏まえ、奇数月隔月の第3水曜日を基本として調整（あわせて3月に通常総会を実施）。

○令和6年度は、事務局会議は幹事会2週間前を目安として毎月の第1水曜日を基本として調整。

○幹事会、事務局会議の日程について、令和6年度をベースとしつつ想定。

	幹事会	事務局会議	備考
4月	16日（水）17:00～18:00	※第1週、第2週で調整中	
5月	21日（水）17:00～18:00	7日（水）17:00～18:00	
6月	－	4日（水）17:00～18:00	
7月	16日（水）17:00～18:00	2日（水）17:00～18:00	
8月	－	6日（水）17:00～18:00	
9月	17日（水）17:00～18:00	3日（水）17:00～18:00	
10月	－	1日（水）17:00～18:00	
11月	19日（水）17:00～18:00	5日（水）17:00～18:00	
12月	－	3日（水）17:00～18:00	
1月	21日（水）17:00～18:00	7日（水）17:00～18:00	
2月	－	4日（水）17:00～18:00	
3月	18日（水）17:00～18:00	4日（水）17:00～18:00	

※5月は孤独・孤立対策強化月間

○シンポジウム等の開催時期、内容については別途検討の上、調整の予定（年2～3回程度）。

《ご参考：これまでのシンポジウム等（令和5年度以降）》

- ・令和5年11月2日 「孤独・孤立対策推進法の施行へ向けた地域内連携の在り方」
- ・令和6年3月8日 「孤独・孤立対策地域協議会設立に向けた地域の取組み」
（・令和6年3月19日 「孤独・孤立対策としてのつながりづくり」※総会関連イベント）
- ・令和6年11月6日 「孤独・孤立対策のこれまでとこれから」
- ・令和7年1月24日 「「らしさ」と孤独・孤立」
（・令和7年3月7日 「孤独・孤立対策における若者支援」※総会関連イベント）